

「上毛新聞」文芸関連記事リスト【7】

昭和4年(1929)4月～昭和5年(1930)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の

創作と、文芸に深く関わりと考えられる評論とをリストアップした。今回は、昭和4年(1929)4月から昭和5年(1930)3月を対象とした。

※①は第一面であることを、朝①は朝刊の第一面であることを、夕①は夕刊の第一面であることを示す。

※連載は初回のみを示し、()に終了日と回数とを付した。

※(1)は第一回であることを示す。

※*は判読が不能であることを示す。

昭和4年(1929)4月

1日(月)

朝②長脇差しを思ひ出す 上毛と政党の将来

早大教授 内ヶ崎代議士(談)

朝③二科会の未来派画家東郷氏愛人と心中

ガスの充満した室内で咽喉を斬る 兩人とも生命は取止む

朝③竹久夢二画伯が榛名にアトリエ湖畔の

景勝を選んで 別邸地の設計顧問も快諾した

2日(火)

朝③子供の生活を明るく 我が社の童画展

夕③婦人の教育程度で其国の文化が判る 婦人国際平和自由協会長 ミセス・ハル(談)

夕③闊秀作家を志す若き女性へ 徳田秋声(談)

3日(水)

夕③模倣追従を捨て創造に生きよ 所謂国産奨励より脱し思想科学の国産を叫ぶ 鈴木

木梅太郎(談)

夕③社会運動に志す若く目覚めた女性に 民衆婦人同盟中央執行委員長 山田やす子(談)

5日(金)

夕③家庭の改善は第一に台所から 通帳主義は経済の大敵 家庭消費研究会理事 中条たね子(談)

夕③移民船 江原政寿君の壮国に饑けして [詩] 佐藤康

夕③派出婦とはどんな職業か 東京市婦人共

夕③肉筆童画展覧会 [広告]

夕③同会長 大和俊子(談)

6日(土)

朝③伊豆より(1) 原恵 () 4月10日(5)

夕③警視庁の調査では公娼は逐年増加 公娼廃止運動を尻目に掛けた此の数字

夕③単音楽と複音楽に就いて 牛山充(談)

夕③童画展へ出品の日本童画家協会員 初山

滋、川上四郎、村山知義、武井武雄、深沢省三、清水良雄(武井氏邸にて) [写真] 真

7日(日)

夕③竹秋の賦 小野忠孝

夕③早い結論 村山十九枝

夕③春の散策 [詩] 梅津泰助

夕③花祭 [詩] 森千魁

夕③上毛の歌人に告ぐ 木村亀道

夕③警流庵小会 [短歌] (2) 九十九春江、ふゆこ・くに、けん三・あづま、小松時雨

夕③歌集「瑞垣」出版報告 須藤泰一郎

9日(火)

夕②桜咲く上毛の伝説 妄念畑の怪異 吉凶を語る 庚申桜 宇津木義祐

夕③社会の浄化は婦人の力で行へ 婦人の力は極めて偉大 社会は其の自覚を望む 平沼淑郎(談)

夕③恋愛と夫婦愛 結婚は個性の融合である

小川隆四郎(談)

10日(水)

夕②桜咲く上毛の伝説 血染の汚れ井 平井村

白石の上野桜 宇津木義祐

夕③教育制度と現実社会に就いて(1) 高島米

峰(談)

(〜4月11日(2))

夕③音楽学校の長唄科新設に就て 東京音楽

学校教授 島崎赤太郎(談)

夕③幸福になつた若者「童話」(1) 畑喜代司

(〜4月17日(5))

11日(木)

朝④十菱氏の近業「小栗上野の死」に就いて

広岡一男

夕②桜咲く上毛の伝説 跡も無い桜塚 相生村

如来堂の因縁 宇津木義祐

夕③都会人と田園人と体格の違ふ 訳食べ物

の關係と田園生活の効

夕③春先きから殖える七八歳の病氣 子供に

多い伝染病応急手当の仕方 岡田道一

(談)

12日(金)

夕②桜咲く上毛の伝説 高德寺の縁起 浮世を

かこつ高德桜 宇津木義祐

夕②金儲け座談会 島田清

夕③婦人の生命は美の母詩の母(1) 詩聖タ

ゴール(談)

(〜4月13日(2))

夕③子供の心理と童話の意義 村岡花子

(談)

13日(土)

夕②桜咲く上毛の伝説 忠度鞭の桜樹 双林寺

七不思議の一つ 宇津木義祐

夕②今度は考へる映画「シンキー」出現ど

こまでのびて行くのか驚く可き映画の進

歩

夕③放送に対する大衆の理解を望む 日本放

送協会々長 岩原謙三(談)

夕③ラジオ童話 秀吉公の少年時代「童話」

松本亮逸

14日(日)

夕②桜咲く上毛の伝説 化け石塔の怪 明治村

横塚の森の怪談 宇津木義祐

夕②佐伯隆隆寺貫主 学士院会員に推さるエ

ヅンバラ大学のユ氏と今迄に異色を見せ

た人選

夕③海辺の女「画」 塚本茂

夕③馬込より 懐しき郷国の諸友へ 阿部鳩

雨

夕③いなめのめ会「俳句」 茂樹、三笑、雨亭、

如友、里女、歌男、仲春、木人、一草、

桜舟、寒鳩

夕③清貧、温室、残雪「詩」 田島嘉之

夕③印象深き先輩 勅使河原洒落

夕③森田君を悼む 大木雄三

夕③私人雑記 矢島胖

夕③仲春居漫語 仲春

夕③父を失ひし歌「短歌」 小黒日露

夕③「瑞垣」記念歌会「告知」

17日(水)

夕③容姿美を害す疾患を治療せよ 初期の注

意が肝要です 東京市衛生試験所技師

永見団次郎(談)

夕③非常に活動的な伊太利婦人に就て 伯爵

ロスキー(談)

18日(木)

夕③春先きが多い神経衰弱の話 肉体的原因

よりも精神的現象である 森田正馬

(談)

夕③処世の信念に就て若き女性に与ふ(1) 日

本女子大学校長 麻生正茂(談)

(〜4月19日(2))

夕③みどりさんとおぢさん「童話」(1) 栗塚

夕陽 (〜4月20日(3))

19日(金)

夕③消費の節約は主婦の大きな使命 流行は

商人の作るもの 共立婦人会々長 新井

卯目子(談)

20日(土)

朝④当局が苦心する児童映画対策 善悪影響

に鑑みて調査会設置されん

夕③伝染病の母 蠅と蚤を駆除せよ 予防法と

その薬品に就て 東京薬業学院 篠崎完

吉(談)

夕③尚武の象徴 端午の節句 其の由来と形式

を語る 中野鉄太郎(談)

夕③職業指導と適性検査に就て 熊谷直三郎

(談)

21日(日)

夕④不良少年は自然に親しませよ 其感化救済は社会の共同責任であらう 日本少年指導会理事 渡部求(談)

夕④近代人に必要な栄養の智識 篠田義市(談)

夕④二つのお日様「童話」(1) 西川満

(〜5月1日(7))

22日(月)

朝③前橋婦人会の春季総会を開く 役員の改選を行ふ 竹内会長さんは重任

23日(火)

夕③常に自己の欠点を認識されたい 自我完成は先づ内省から 羽仁もと子(談)

夕③生活の第一義は経済生活の確定 大妻コタカ(談)

夕③認められて来た婦人の巡査

24日(水)

夕③女性にも必要な法律の常識(1) 判事村武(談) (〜4月25日(2))

夕③漢さんと小浪さんを迎へる 矢島胖

25日(木)

朝③海外婦人協会で移民奨励講演 前橋高等女学校で活動写真も映すと

夕③父となり母となる方々へ 良き子供を作るのは夫婦の共同責任(1) 温心館育児主任 島岡茂(談) (〜4月26日(2))

夕③女性美を語る 女形としての立場から明

治座出勤 中村福松(談)

26日(金)

夕③女学校卒業直後の生理衛生に就て 日本赤十字社嘱託 小林省三(談)

27日(土)

夕③人類の敵は何か 吾々は妥協せず飽迄も闘争せねばならない ジョン・アールモット博士(談)

夕③紙上講座 よき父母によき子供あり 先づ温き感化を望みたい 婦人と新社会主幹 山田わか(談)

28日(日)

夕③泰一郎と「瑞垣」 高橋城司

夕③歌集「瑞垣」を称ふ 若穂緑

夕③「瑞垣」其他 菊園優

夕③高原の記憶(1) 山枯れ 梅津泰助

夕③中村節也氏のことなど(1) 富岡芳文 (〜5月5日(2))

夕③春「詩」 天野純

昭和4年(1929) 5月 1日(水)

夕③医師国営は弊害が多い 医術の進歩を阻止す 長町穆(談)

夕③芸術家の欠点(1) 東北帝国大学教授 阿部次郎(談) (〜5月2日(2))

2日(木)

朝③活動写真と講演で児童愛護を宣伝

夕③病魔が来て医者が来るまにどんな手段を取つて置かねばならぬか 正木不如丘

(談)

夕③三本足の鳥とちい子の話「童話」 河原築之助

3日(金)

朝②文士連の集り 三山会員の講演 前橋市役所楼上にて明四日夜六時から

夕③科学を基調に宗教生活へ 文化を進めるには魂の完成が必要 富士川游(談)

夕③音声の醜 疾病及び飲食物との関係 東京市衛生試験所技師 永見団次郎(談)

夕③鳩になつた武士「童話」(1) 沢井章三 (〜5月10日(6))

4日(土)

朝②初夏の一夜を面白く語り度い 四日夜の学芸講演に生方さんの意気込み

朝③漸く認められた相愛館の事業 一層真価

夕③廿五歳禁酒法は何故に必要か 廿四五歳が身心総ての完成期 日本国民禁酒同盟 会々長 長尾半平(談)

夕③悲恋仇愁 愛怨魔道「小説」(1) 紀野紅

二 (〜10月30日(7))

5日(日)

夕③春駒 馬頭観世音祭礼を唄ふ「歌謡」 佐々木録亭

夕③私観近代風景 大木雄三

夕③高原の記憶(2) 羽根尾、地藏川、嬌恋の里、中之条町 梅津泰助

夕③收穫の後、春「詩」 須永善晴

夕③五月「詩」 柚木厚太郎

夕③歌集瑞垣を観る 石樽千亦

夕③赤城山と須藤君 飯田莫哀

6日(月)

朝②上毛の生んだ操觚者郷土で講演会を開く

生方さんのユーモアに夜は更けて軟い

処硬い処取交ぜた会(上野から銀座 大

木雄三/東洋文学の西洋に及ぼした影響

週刊朝日記者 清水暉吉/スポーツと

大衆文芸 白石実三/雑誌報国論 講談

社主事 宮下丑太郎/生方敏郎/政界側

面観 山田司海/松美佐雄/現代教育論

遠藤隆吉)

朝②前橋のお歴々が一行の歓迎会 嬉野で故

郷気分を味ふ

朝②四日三山会員の郷土訪問「写真」

7日(火)

夕③一国の文化は風土に関係を持つ 日本人

は日本を忘れ勝ち 伊藤忠太(談)

夕③社会を浄化する真人を待望す 鷲尾順敬

(談)

8日(水)

夕③忽せに出来ぬ小児の結核病 四〇パーセ

ントの罹病率(1) 佐藤正(談)

(5月9日②)

夕③立君国の尊さは何にあるか 日本と英国

の国体に就いて 三宅雪嶺(談)

9日(木)

夕①鎌倉にて(1) 正木水村 (6月1日⑨)

夕③先哲不朽の遺訓 栄養の三大要訣 栄養

研究所長 佐伯矩(談)

10日(金)

夕③母性の注意すべき生乳児の便通

夕③お花の伝説 オックス、アイ、デイジー

上和田英樹

夕③出生時の赤ん坊の身長や体重 其増加率

や体温等月足らずでも育つ

11日(土)

夕③宗教団体の法の必要なる理由 増上寺執事

長 窪川旭丈(談)

夕③民衆を中心とする演劇を高唱す 金子洋

文(談)

夕③桃色の夢「童話」(1) 井上康文

(5月22日⑧)

12日(日)

朝②翠雲画伯相手に訴訟を起した揮毫して

くれぬとて

夕②上毛文学史 松村琴荘氏が廿九年の研究

夕③晩春初夏 佐藤雪夫

夕③春「詩」 須永善晴

夕③旅の男「詩」 岸とらを

夕③瑞垣の出版を祝ふ 相聞歌人としての須

藤氏 奥貫信盈

夕③高平村雲谷寺遊記 綿貫六助

夕③杉田謙作詩集「ゆがんだ顔」を讀みて

井田貞衛

夕③松浪君送別十日会小集「記事」 秋山一

善/「短歌」 平田肖二、茂木武夫、村田

要次郎、高橋庫蔵、萩原登久、渋沢要、

大沢政司、秋山一善、松浪

夕③文芸消息 須藤氏慰勞吟行会「告知」

14日(火)

夕③婦人は先づ第一に家庭の母たれ 子供は

二人位が適度 公民権は四十歳から 鳩

山春子(談)

夕③近代的で手軽なバック化粧法 埃及の女

王クレオパトラの時代にも行はれたメ

イ牛山(談)

15日(水)

朝③初夏の赤城へ お歴々の膝栗毛 知事一行

の登山クラブハウス建築の敷地見(1)

(5月20日⑥)

夕②雨もよほいの赤城に勝地を探る記 クラ

ブハウス踏査に随つて 柳特派員

夕③天然痘の用心に種痘をなさい 種痘は何

回してもよい

夕③不良への第一歩は季節の誘惑から 騙さ

れた復讐誘惑の伸る時 東京少年審判所

保養保護司(談)

16日(木)

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(1) 神戸及び須

磨にて 阿部美代

夕②負けてたまるか 今度は「前橋音頭」よ

い/よいやさ 眉橋の姐さん鼻をうご

めかす

夕③飲酒に原因する労働者の災害 アルコー

ル分は脳に七十二時間作用する 小塩完

次(談)

夕③外国の子供と絵を交換 英国とメキシコ
とジャバの子供の絵

17日(金)

朝②雨の青山憲法会館に愛国婦人会開会 優
渥なる令旨を賜はる

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(2) 大阪にて
小池たも

夕③人の健康は文化と共に在れ 日本人の体
質と衣・食・住の問題 萩原良一郎(談)

夕③お花の伝説 松葉ぼたん 上和田英樹

夕③忌むべきは性病 早期治療が肝要 日本赤
十字社調

18日(土)

夕②満都の人氣をあふる早慶戦を控えて 復
活以来の熱と力の衝突 白石実三

夕③大切な子供の教育 先づ自覚を促せ 個性
境遇に依つて指導方法を換へよ 慶応幼
稚舎副校長 大多和顕(談)

夕③不良少女少女のたどり行く道 先天的素
質より社会生活環境に依る事多し 東京
少年審判所審判官 前田偉男(談)

夕③お祝の生花 安中高女華道教授 永井理
鷹(談)

19日(日)

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(3) 京都にて
松下卷子

夕③農民文芸について 松原一夫

夕③近時随想 赤城馬彦

夕③山路はるばる「詩」 西川林之助

夕③十五夜さまも「詩」 塚本篤夫

夕③おそい結論 村山十九枝

夕③莊子 早水城春

21日(火)

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(4) 京都滞在
北島清子

夕③人類平和の為に国際心を養へ 新渡戸稲
造(談)

夕③信仰を根本に社会浄化を計れ 階級・地
位・職業を超える救ひの道は宗教に在る

救世軍少将 山室軍平(談)

22日(水)

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(5) 京都から奈
良へ 竹内すい

夕③台所経済に目覚めた主婦の運動 互斯問題
は全国婦人の注目に値する問題 普選獲
得同盟幹事 金子しげり(談)

夕③日本国民の心に緩みが見える 故国に帰
つての感想 鹿木子員信(談)

夕③水中の女神睡蓮のお話「夢見心地に」
とハイネは歌ふ

23日(木)

朝③男子に対立すべき女子の補習教育 前橋
市教育総会に対し竹内市長から諮問

朝③初夏漫談 劔聖堀部安兵衛 庭作りの趣味
(1) (5月25日(3))

夕③肺病は強いく 信念力で治る 煩悶、狼
狽、悲観、自暴自棄は大なる禁物なり

北島多一(談)

夕③生産能率増進で人口問題も解決 土方成
美(談)

夕③鳥と魔王「童話」(1) 楠田敏郎
(6月4日(9))

24日(金)

朝④成人教育の普及と施設傾向 婦人施設が
漸次増加

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(6) 二見浦より
名古屋まで 岡田三枝子

夕③結核を土産に農村に帰る男女工 資本家
の自覚と同情は農村での伝染を少くす
内務省衛生局技師 佐藤正(談)

25日(土)

夕①関西の旅 前橋高女旅行団(7) 名古屋から
前橋へ 熊谷たけし

夕③現実社会に驚く学校出の女性 固く清き
信念を以て自己の理想を生かせ 三輪田
元道(談)

夕③女性の力により文化の建設を要す 強者
主義を排せよ 帆足理一郎(談)

26日(日)

朝④文化と共に気狂は増加する

夕③海の誘惑(1) 杉田謙作 (6月2日(2))

夕③花束「詩」 物集千種

夕③ほけたんぼ「詩」 狩野登美次

夕③冬日「画」 飯島勇

夕③東洋面礼讀漫語 飯島勇

夕③いなめのめ会「俳句」 4月29日 楚水、仲

- 春、桜舟、歌男、赤陽、杏人／5月18日
 鳴月、赤陽、桜舟、雨亭、歌男、香山、
 寒鳩、茂樹、琴莊、仲春、里女、維石
 夕③ 未完成男性ソナチネ〔詩〕 清水房之丞
 夕③ 雑感より批評へ〔石堂保氏著「日傘」
 評〕 神山康人
 夕③ 忍町歌会詠草〔短歌〕 諸貫志津、清水た
 み、村社きよ、諸貫美津、松村清風、角
 田伊之助、木崎武男、田口福次郎、青木
 欽二、山本露星
 28日(火)
 朝③ 新感覚派『風呂と将棋』はだか虫のおか
 め連が車座の中に始まる 双川部長さん
 の肩のコリ
 夕① 好色文学全集 風俗壊乱と認らる 梅原北
 明氏留置され妹俊子と共に取調べらる
 夕③ 三ツ児の魂は一生を支配する 最も大切
 な初児教育 無理な抑圧は大禁物 東京
 少年審判所少年保護司 保美駒蔵(談)
 夕③ 大掃除の後にジフテリアに罹る 梅雨期
 と細菌に就いて 吉岡弥生(談)
 夕③ 誤解された衛生の本義 常識を離れた衛
 生は反つて非衛生となる 村地長孝
 (談)
 29日(水)
 朝③ 国立公園を機会に郷土風俗を紹介 本県
 からの出品に関し地方役員会を開く
 夕② 煙の京阪神に聞く「上州小唄」試演 三
 十日、味の素支店楼上で お国気分を味ぶ
 会
 夕③ 我が公娼制度は真の奴隷制度である 売
 笑行為に附随する病害は肺病より恐い
 廃娼聯盟委員長 松宮弥平(談)
 夕③ 昼が長くなれば性的犯罪が殖る 夜昼の
 区別なき都会はこの種犯罪が多い 金子
 準二(談)
 30日(木)
 夕③ 就職難の緩和は容易に解決される 高等
 教育を受けた者も筋肉労働に就いて欲し
 い 東京女子職業学院長 中村茂樹(談)
 夕③ 母親は赤ん坊の泣き声を聞分けよ 要求
 に応じて満足せしむるのがお母さん方
 のつとめ
 31日(金)
 朝③ スラバヤから 南洋商業実習生 加部竹
 雄
 夕③ 時代に適したる人物を造れ 中等教育改
 善策と自分の信念と主張 東京府立一中
 校長 川田正徹
 夕③ デパートは文化的で民衆的 先づ信用が
 第一 百貨店経営の苦心
 昭和4年(1929) 6月
 1日(土)
 夕③ 伯林で開催される婦権国際大会 男女同
 権を主張する議題の内容と意気
 夕③ 女子教育は時代に伴つて改善 吉岡弥生
 (談)
 2日(日)
 夕③ 秩父山行歌抄、晩春秘唱〔短歌〕 茂木善
 一郎
 夕③ 放浪〔詩〕 市村京之助
 夕③ 浅弘見詩集「街に手の行列が」評 井田
 貞衛
 夕③ 五月の朝〔詩〕 岡部宇一郎
 夕③ 母を慕つて 武内与四雄
 3日(月)
 朝③ 共愛女学校の女神のお祭り 前橋初めて
 のメーデー
 4日(火)
 夕③ 日本は世界の代表的癩病国 遺伝的では
 なく伝染病人道問題として根絶せよ
 外島癩療養所長 村田正太(談)
 夕③ 密接な関係を持つ妊娠と栄養 ビタミン
 を摂取せよ 忽滑合精一(談)
 5日(水)
 朝③ 奥上州の山を環つて大自然の懐中へ 紺
 碧の肌に旅心をソゝる(1) 6月7日(3)
 夕③ くめども尽きぬ山の誘惑 近代人が求め
 て止まぬ山、樹林、水 田村剛(談)
 夕③ 傾くものは正しからず 蜷川新(談)
 夕③ 身がはり雷〔董話〕(1) 平野止夫
 (6月18日(10))
 6日(木)
 夕③ 地方から上京する青年へ 身分不相応な
 理想を棄てよ(1) 東京府職業紹介所豊
 原又男(談)
 (6月7日(2))
 夕③ 時とは何でせう 時計が出来る迄 六月十

日を時の記念日とする訳 〈子供の頁〉

7日(金)

夕①北海の旅(1) 篠原蕭々子(〜6月12日(4))

8日(金)

朝③水郷画讚「画」(1) 関口高二郎

(〜6月14日(5))

夕③山林の状態でその国情が判る 人間が自然の懷に抱かれる時が来た 白沢保美

(談)

夕③神秘の山懐しの山山に親しむは近代人

榎有恒(談)

夕③只今が一番 新入学童の危期 善習悪習の

分岐点 児童芸術協合理事長 日比谷小

学校々長 中沢時彦(談)

9日(日)

夕①学生思想対策に学務部を独立

夕③緑愁 島岡利二

夕③先生と私 早水城春

夕③どくだみの花「画」 清水刀根

夕③網に掛つた死体 川辺潤三郎

夕③お熊さん 高橋吉之助

夕③萩町雑信 柳芳太郎 〈(1)のみ確認〉

夕③末記 芳太郎

夕③文芸消息 杉田謙作詩集「歪んだ顔」出

版記念会「告知」

11日(火)

夕③内省しては身の愚さを知る 善行を善行と思惟す 是れ即ち悪行なり 富士川游

(談)

夕③童児教育の目的は個性の伸長にあり個性に適應せる教育こそ教育の真諦なり

高峰博(談)

12日(水)

朝③登山季節を迎へて 赤城登山道改修 箕輪

から赤城神社まで二十日迄に完成

朝③時の記念登山 碧空に立つ榛名へ 曲輪町

青年団に随行 須田特派記者

夕③禁酒運動は青年学徒の手で 飲酒のみの

禁酒でなく社会国家の為めの禁酒 日本

国民禁酒同盟総主事 小塩完次(談)

13日(木)

朝③幕末から明治に至る文化変遷の大絵巻物

歓迎湧くが如き「幕末明治文化変遷史」

上毛新聞社発行「広告」

夕③女学校出の婦人に離婚が多い様だ どう

も精神的修養が足りない 吉岡弥生

(談)

夕③自然と人生の融合 東洋文化の基調 境

野黄洋(談)

14日(金)

朝③八月中旬柳座で民謡祭を行ふ 群馬民謡

協会主催で

夕③導く者は観よ 児童の社会と生活 善き素

質は伸ばせ悪き素質は矯めよ 東京帝大

助教授 青木誠四郎(談)

夕③初夏に著しい青春の躍動 感じ易き若人の心を如何にして導く可きか(1) 東京女

高師教授 倉橋惣三(談)(〜6月15日(2))

15日(土)

夕③婦人深夜業廃止と工場衛生への影響 工場の結核発病の原因が除去さる 内務省

衛生局技師 佐藤正(談)

16日(日)

朝④百八塚妖怪陣「講談」(1) 橋場鮎刺

(〜翌年1月26日(四))

夕②流行の「東京行進曲」突然放送禁止歌

詞が風俗に害があると監督遞信局の英断

夕③脱線旅行記 綿貫六助

夕③私は夢む、私は横はる「詩」 バアンズ

清水房之丞(訳)

夕③勇ましい散兵だ「詩」 温井東衛

夕③六月 岡部宇一郎

夕③瑞垣出版慰労大室吟行 勅使河原洒落

夕③相馬ヶ原 昭和三年十月学生隊青訓生徒

隊聯合演習、夜間演習「短歌」 並木白路

18日(火)

夕③食糧問題は禁酒で解決される 酒になる

米四百六十万石 四百十三万余人の食糧

日本国民禁酒同盟総理事 小塩完次

(談)

夕③海洋怪奇伝説 海の神秘は昔の話 今では

世界の宝庫 水産講習所教授 丸川久俊

(談)

19日(水)

夕③婦人向上の為に速やかに与へよ 男女同権の主張求めずとも与へよ 鈴木文史

朗(談)

夕③笛吹きトムミー「童話」(1) 松尾一化子

(7月4日(12))

20日(木)

朝③現代ピカ一を揃えて漫談と音楽の会 廿

三日午後一時柳座で上毛新聞社主催の下

に

夕③体温調節作用と日射病のお話 慶大教授

加藤元一(談)

21日(金)

朝④前商問題批判 前橋市教育会特別会員

吉井錦陵

夕③現実と懸け離れた女子中等教育 實際化、

地方化の必要提唱 文部省補習教育主事

千葉敬止(談)

夕③人間の体は水に浮くもの 動物は習はず

泳ぐ 内藤和行(談)

22日(土)

朝③俄然! 人気沸騰した漫談と音楽の会 明

日一時から上毛新聞社主催で 現代のピ

カ一柳座に集る(音楽 照井栄三、小松

清、福田蘭堂/漫談 長田秀雄、直木三十

五、竹久夢二、翁久允、生方敏郎、西条

八十、新居格、麻生豊)

夕②つゝ美しい赤城へ愈々一行の登山 本

社主催の「赤城山デー」雨が降つても登

山は決行(参加予定 直木三十五、生方敏

郎、長田秀雄、加納作次郎、新居格、翁

久允、松岡譲、麻生豊、田中比左良、岸

田劉生、竹久夢二、西条八十、藤田健次、

照井栄三、小松清、福田蘭堂、田中甚助、

小林秀二郎、岡田三郎)

夕③夏の女性に魔手はのびる 享樂的气氛を

排して清浄高尚の心を持って 三輪田繁子

(談)

夕③ソヴィエツトロシアの女性 明るく愉快

な生活 秋田雨雀(談)

23日(日)

朝③現代一流の芸術家がつつじの赤城へ登山

群馬県、前橋市、勢多後援の下に 上毛

新聞社主催で赤城山を紹介(参加 翁久

允、松岡譲、西条八十、照井栄三、麻生

豊、田中比左良、藤田健次、直木三十五、

小林秀二郎、新居格、生方敏郎、福田蘭

堂、竹久夢二、小松清)

朝③愈今日午後一時から漫談と音楽の会 世

界的歌謡歌手照井氏の独唱 西洋音楽を

尺八でやる福田氏 現代一流の芸術家揃

ひ/照井栄三三独唱曲目解説並歌詞み

どり児は眠る、五月、月白ろし、ひがん

ばな、星の飛ぶ夜は、さみだれ、佐波お

けさ、ホ夕、ナ、ポロ、天の童児、航

海洋燈、馬うり、松島音頭

朝③車中即興「俳句」 夢二

夕③農民文芸の観点 松原一夫

夕③五月雨、閑古鳥「詩」 須永善晴

夕③雑談的風景 小須田薫

夕③少女礼讃禍 須藤泰一郎

夕③待つてゐるのに、笹の葉、逢ひ席候「詩」

塚本篤夫

夕③自叙伝的風景 坂本伸一

夕③詩集歪める顔出版記念会(出席 杉田謙

作、井田貞衛、温井武治、森千魁、草野

心平、塩野筍三、大野金治、小林定治、

柳芳太郎、角田恒、中島銀次郎、高橋隆、

清水房之丞、梅津泰助、島岡利一、榎田

薫)

24日(月)

朝②上毛新聞社主催の漫談と音楽の会 県下

の人心を動かして空前の盛況を呈す

朝②千明氏の撮影隊赤城を済ませ湯町、伊香

保に向ふ

朝③千古の紅を結ぶつつじ山ふところを縫ふ

帝都の文壇芸術界の一流が登山 上毛

新聞主催の赤城山紹介

朝③岡本学務部長漫像、篠原上毛社長「画」

田中比左良、麻生豊

朝③夕への戯曲「画」 田中比左良

朝③赤城音頭(即興) 作歌 西条八十/作曲

小松清

朝③大赤城山の印象 文土画家音楽家夫れ

く其の神秘と明媚を讚歎(1) 赤城礼讃

照井栄三/大沼暮色 翁久允/赤城の

月夜 新居格

25日(火)

朝②赤城にのぼつて「画」「短歌」 竹久夢二、

翁久允

朝③二千余の聴衆が思はず讚嘆の声を二十

三日柳座に催ふされた上毛新聞の漫談と音楽会

朝③漫談と音楽の会「写真」

朝③大赤城山の印象 文士画家音楽家夫れ

く其の神秘と明媚を讚歎(2) つかれた

ま、福田蘭堂／上毛の剣道家 直木三

十五／満更でない 松岡謙

朝③桑原博士漫像「画」 田中比左良

朝③本社主催赤城山紹介漫筆(1) 恋の勝利者

松岡氏恋を語らず 家庭の円満さを表徴

する翁久允氏の親切ぶり やなぎ

夕①平井晩村の為に記念碑を建立 八月末に

は民謡祭を 民謡会総会で議決

夕③夏痩せは先づ心配無用 自然的生理現象、

減食は誰にも必要 衛生試験所 永見団

次郎(談)

夕③美的生活の向上と工芸 審美眼を養ふに

は情操の陶冶と研究 安田祿造(談)

26日(水)

朝③大赤城山の印象 文士画家音楽家夫れ

く其の神秘と明媚を讚歎(3) 宝の山

生方敏郎／ランプの下で 竹久夢二

朝③西条八十氏の赤城音頭の一節「書」

朝③直木三十五氏の赤城山即興「書」

朝③本社主催赤城山紹介漫筆(2) 往年のモダ

ニスト竹久夢二氏 新坂平で浮ばれぬ一

幕 ユーモリスト生方氏は東京瓦斯解決

策案出

朝③竹内市長漫像、玉木氏の像「画」(1) 田

中比左良、麻生豊

夕③人類保健の道は自然に還るに在る 人智

の発達は反つて自然を遠ざからしめた

正木不如丘(談)

夕③お台所の下手な女学校出の奥様 応用が

利かねば駄目 吉岡弥生(談)

27日(木)

朝③本社主催赤城山紹介漫筆(3) 白樺銘仙を

売出さうとする田中画伯 山の宿で大の

男を泣かした福田蘭堂氏の一曲

朝③赤城山「画」 田中比左良

朝③桜井氏像、* *氏の像「画」(1) 麻生豊

夕③音楽の普及は社会を善化・美化す 田辺

禎一(談)

夕③水泳させるには十歳以上に避暑も決して

警戒でない 岡田道一(談)

28日(金)

朝②小栗上野介と高山先生の像 篠原上毛社

長が寄附 群馬記念館を飾る

朝③本社主催赤城山紹介漫筆(4) 美男の雛形

西条氏のことゝも

朝③詩人に「詩」「書」 西条八十

朝③春画画伯の鑑賞会 二十九日臨江閣にて

開催

朝③花鳥屏風「画」 永田春水

夕③夏期移住に依る虚弱児童保護 文部省体

育課長 北豊吉(談)

夕③初夏の花園の女王花あやめの話 種類も

色もとりどりに世界に比類なき花卉 稲

荷山資生

29日(土)

朝③赤城山は好いですねエー 新任の女子師

範校長藤見睦治氏の憧憬

夕③婦人の趣向は商品を支配する 商品の単

純化は家庭並に国家経済に影響 日本女

子大学教授 井上秀子(談)

夕③忘れ勝ちな隣人に対する礼儀 直接交

際は無くても 塚本はま子(談)

30日(日)

夕③「松原君の農民文芸の観点」を読みその

誤れる所論を駁す 桑泉城仙

夕③六月閑吟抄 ゆく春、子供らに別る、遠人

を憶ふ、城春荘閑日「短歌」 早水城春

夕③私の山村暮鳥観(1) 塩野筭三

(7月14日(2))

夕③幽燕非故国 肅親王の遺稿 川口準太郎

夕③「愛の苦行」を読む 近西郷愁

昭和4年(1929) 7月

2日(火)

夕③現代の婦人は男子を感化せよ 大象も婦

人の毛髪に繋がるの謬もある 平沼淑

郎(談)

夕③現実に立ちて理想生活を懐へ 富士川游

(談)

夕③半裸体の美と誘惑 海水浴場に不良徒が

跋扈するも理由あり 高田義一郎(談)

3日(水)

夕③結婚を利用して泣かされる婦人裏に裏

- ある誘惑のワナ 前東京少年保護司 宮城玉代(談)
- 夕③夏は不良の徒がどんな網を張るか 少年保護司 保美駒藏(談)
- 4日(木)
- 夕③精進の生活 三味の境地に就て「道心中に衣食あり」 東京帝大教授 常磐大定(談)
- 夕③清楚な美を現す真夏の化粧法 ハリウツド美容室 ハリー牛山(談)
- 5日(金)
- 夕③七月七日の節句と七夕祭の話 おなじ日の二つの祭 関根正直(談)
- 夕③「今上陛下の御聖徳を拝して」 山本少将の稀に見る好著 各家庭で一本を備へよ
- 夕③雪姫物語「童話」(1) 村山武彦(7月13日(7))
- 6日(土)
- 夕③主婦に必要な経済的観念 其の態度其の實行は影響する処頗る大きい 塚本はま子(談)
- 夕③玩具の改善を図る童話の叔父さん達 新作玩具を募集 毎年秋季に展覧会を(日本童芸院 有坂与太郎主宰、巖谷小波、下田次郎、倉橋惣三、高島平三郎、岸辺福雄、突寛之、藤五代策)
- 7日(日)
- 夕③脱線吟行(1) 綿貫六助(7月14日(2))
- 夕③元町行進曲「歌謡」 西川林之助
- 夕③真夏の夢 幼なき人々に「詩」 小野忠孝
- 夕③緑窓漫筆 大槻三好
- 夕③緑蔭独言 木村春樹
- 夕③農村より 井上碧村
- 夕③新しい民謡としての菓の雪香 西川林之助
- 9日(火)
- 朝③宵に咲く月見草は哀愁に泣く花
- 夕③婦人労働者に感謝と同情を捧ぐ 彼女等の健康を願ふ 岡実(談)
- 夕③公娼廃止後は私娼は減少する 廃娼聯盟 事業部長 伊藤秀吉(談)
- 10日(水)
- 夕③婦人は歳を忘れて潑瀾たる意気を養へ
- 夕③日本女子体育学校長 二階堂とくよ(談)
- 夕③家政と政治関係 政治は男子にのみ委かして置けぬ仕事 市川房枝(談)
- 11日(木)
- 朝④医学の進歩により人工妊娠可能果して 優良児を得られるか否やは大いに疑問 小倉清太郎
- 朝④現代人の生活諸問題に就て 明治大学教授 小島憲(談)
- 12日(金)
- 夕③新政府に期待する教育宗教政策 宗教教育の作興は思想問題を解決す 鷺尾順敬(談)
- 夕③幽霊の話 日本心靈現象研究会 村松介石(談)
- 夕③デフテリヤの全治後の注意 竹内薫兵(談)
- 13日(土)
- 夕③現代の社会実相と住宅問題に就て 内務省社会局福利課長 藤間恵(談)
- 夕③家庭の料理は全家族向きに 主人本位でなく子供の栄養も考へよ
- 夕③誤解されてゐる海水浴の効果 草間均(談)
- 14日(日)
- 夕②児童の個性率研究の講習会 子供の職業紹介に力を注ぐ 高崎市教育会で
- 夕③軽業に就いて「詩」 柚木厚太郎
- 夕③娘を売る父 農民小説風景ノ一(1) 小須田薫(7月21日(2))
- 夕③梨木行 柳芳太郎
- 夕③上毛文壇最近の状況 一、雑誌「私たち」、二、新美術劇場、三、新美術劇場と観客 藤島鶴三郎
- 15日(月)
- 朝③童話を機縁に学校が睦み合ふ 近頃耳よりなお話(沼田童話会誕生満一年 櫛淵雄多喜、塩野筍三、森島健二、小林定二、狩野英二)
- 16日(火)
- 夕③日光を浴びそして清水を飲み 無帽主義は健康の基 食は単純なるが良し 東京府立第五中学校長 伊藤長七(談)
- 夕③物価の高い日本 世界中で一番の称 国民

協力して経済の建て直しに邁進せよ 陸軍省一等主計 池本信巳(談)

夕③鯨の話 赤ん坊は三間の大きさ 七十まで生きるもの <コドモ欄>

夕③魚になつた武士「童話」(1) 進藤進 (7月27日(10))

17日(水)

朝④「蜘蛛男」大傑作発表

夕③実に恐る可き飛行機の威力 防空思想の涵養は国防上重大なる問題 参謀本部々

長 陸軍少将 広瀬寿助(談)

夕③列車に投石した子供の言ひ分 玩具が無いから……と 有坂与太郎(談)

夕③意気旺盛なる新興土耳其の婦人 婦人の生活に生氣を注入する意気を見よ 山田 やす子

18日(木)

朝④地方教育界にも女子視学官を 女子督学官新設に刺戟されて議起こる

夕②長い三十余年を病院に奉仕生活 光榮に浴した水野女史にナイチンゲール章伝達 式 水野女史の思出話

夕②合宿廻り 前商篇(1) 塩豆の差入れ

夕③失つて初めて知る健康の有難さ 国民保健体操を奨む 東京高師教授 大谷武一(談)

夕③現代教育の欠陥 文部省督学官 松井謙吉(談)

19日(金)

夕②合宿廻り 前商篇(2) 御馳走日、木土月

がこつそりのぞく野天風呂 行儀のよい 川崎君

夕③食糧品の購入は市価と栄養価を先づ安くて栄養価多く消化呼吸同化よき物を選べ 生活改善同盟 吉武定夫(談)

夕③何処へ行く! 戯曲・文学・劇 大衆に向つて私は語る 高田保(談)

20日(土)

夕②合宿廻り 前工篇(1) お米は持寄り

夕③開放的な夏に性的な犯罪 家を空けると 空巢人ごみの中ではスリ

夕③蛇いちご「短歌」 芳太郎

21日(日)

朝③女子の實際教育に燦然たる光を放つ 前橋市立高等家政女学校の華やかな昨日の開校式

夕②合宿廻り 前工篇(2) 「量第一」主義

夕③初夏法悦 岡部宇一郎

夕③暴風雨の海の思出 たけを

夕③死などといふ事「詩」 赤城三郎

夕③伊勢物語古写本 桑原勘一郎氏所蔵 米倉文二 萩原扶美代、原田信三、小松時雨「記事」 邦

23日(火) 朝③海の香、慕つて阿字ヶ浦へ(1) 松崎 (7月25日(3))

夕②合宿廻り 前中篇(1) 合宿は御法度

夕③暑中休暇中の児童は自由に課題を多くしたり好まぬ事を強制するな 文部省学 校衛生官 大西永次郎(談)

夕③悪習を打破し節約改善を計れ 根強い衣食住の伝統 打破には勇敢であれ 塚本 はま子(談)

24日(水)

朝④大成丸便り(1) 商船校生 阿部和

夕②合宿廻り 前中篇(2) 先輩目白押し

夕③少年時代に大切な家庭の本能訓練 充分に訓練されて居れば外部の誘惑にも打勝つ 東京少年審判所保護司 保美駒蔵(談)

夕③盛夏些談 グロテスクの持ち味 妖怪に集まる心 超現実的魅力 東京伝説の会から

25日(木)

夕③異常児童の教育方法と施設 林間学校、学校給食 移住教育等の効果 文部省体育 局学校衛生官 大西永次郎(談)

夕③夏休みの機会に研究心を養へ ニュートンの発見も簡単な真理から 横山桐郎 <コドモ欄>

26日(金)

夕③盛夏些談 幻影か化け物か 行燈から幽霊 などすべて錯覚から

27日(土)

夕③日本婦人はもつと社会を知る様に学校

教育丈けでは駄目です 守屋東(談)

夕③日本映画に何を時代は要求するか 製作者の苦心は何処に

夕③動物園で人気者の河馬のお話 上野動物園主事 黒川義太郎(談)

〈ホドモの読物〉

28日(日)

夕②夏の山、伝説の榛名へ 草鞋がけや山駕籠

の昔を夢に 新たに開鑿した表参道から 一路湖畔へ 自動車でドライブのひとく

さり(1) 柳 へ7月30日(3)まで確認

夕③市の植木 須藤泰一郎

夕③炎暑前橋公園、同第二公園「詩」 岡部宇一郎

夕③雪から濃緑まで 綿貫六助

夕③自殺者の心理 高橋吉之助

夕③山に住みて「短歌」 小須田喜久栄

夕③友情(1) 早水城春 へ8月11日(2)

夕③日記抄「短歌」 永井澄夫

30日(火)

夕③不良児を出すは家庭教育の欠陥 不良少年を責る前に先づ其家庭を調べよ 少年

審判所 天羽全孝(談)

夕③我が国に於ける婦人運動の将来 国際化の必要を提唱す 上代たの子(談)

夕③李少年の復讐「童話」(1) 白井史郎

へ8月9日(9)

昭和4年(1929) 8月

1日(木)

夕③肺結核の初期の自覚症状 額田豊(談)

2日(金)

夕③高潔の人格と人生の価値 言ふは易く、行ふは難し 田中穂積(談)

夕③盛夏些談 夢! 夢! 果無きは夢 蜜のやうに甘い恋の夢ととても恐しい夢 石川仁一郎(談)

夕③海水浴の効果と体質の適応 強壮・虚弱に

依つて其の効果にも大差 長谷川鉄一郎(談)

3日(土)

夕③生活に現れた禁酒の好影響 米国に於ける現象 特に労働者に著し 日本禁酒同盟

夕③経済困難を婦人の力で救へ 守屋東(談)

4日(日)

夕③農民文学に就て 小須田薫

夕③水を待つ「詩」 須永善晴

夕③朱夏一週間 山崎竜雄

夕③沖は夕風「詩」 葉山しげる

夕③「もんぺ」の思ひ出 小橋力

夕③日曜会第九回短歌会詠草「短歌」 早水

城春、根岸英二、清水政福、田嶋武夫、松浦巖、懸川静村

6日(火)

夕②画家の当り年 広沢校岩崎氏は洋画科 磐戸茂木氏は日本画科 何れも文検合格

夕②お山の家から海辺の宿へ 湘南くげ沼の

地 遠浅の海岸に健康増進にいそしむ 日

赤支部主催の海浜学校

夕②子供たちの心は躍る海の生活 阿字ヶ浦の臨海学園に桐生各校生徒の喜び 桐校

加藤

夕③節約の第一歩は先づ禁酒から 国民全体で禁酒すれば酒代十五億円が浮く 高島

米峰(談)

夕③盛夏些談 南洋の女のあきらめ? こだはりの無い心か? 菱川実雄博士のおはなし

夕③社会改造の現実と理想 慶大教授 川合

貞一(談)

7日(水)

朝③俄か仕立の修験者が浅間山の穴のぞきに 前橋地方裁判所員等々の一行 島岡状師

が団長格となる(1) 柳 へ8月8日(2)

朝④阿字ヶ浦 桐生臨海学園(2) 昭和校 奈良

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(1)

井野順恵

夕③日本は結核国か 乳児死亡代表国か

8日(木)

朝④阿字ヶ浦 桐生臨海学園(3) 南校 加藤

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(2)

町田裕子

夕③緊縮政策と婦人の立場 景気不景気に拘らず平素の心懸けが肝要 吉岡弥生

(談)

夕③まづ健康 紫外光線の効果 東京紫外線療院長 川上武熊(談)

9日(金)

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(3)

尋六男 小沼育造

夕②上毛怨霊跡 多々良村 権太郎さま

夕③中元の意義と我國民性の美風 関根正直(談)

(談)

夕③中元の贈物と其の心得に就て 身分相応に誠意の籠つた物 東京女子高等商業学校長 喜悅孝子

校長 喜悅孝子

夕③国民教化と公園の利用 文部省体育課長 北豊吉(談)

北豊吉(談)

10日(土)

朝②丸の内にはびこるモボモガ恐慌 裏面の醜行曝露して美粧院の山野取調べ

醜行曝露して美粧院の山野取調べ

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(4)

尋五 中曾根康弘

夕②上毛怨霊跡 梅島村 おそよの土橋(1) 宇津木義祐

津木義祐

夕③家族を主とした住宅の改善 お客本位や外観形式主義を排せよ 三輪田繁子(談)

外観形式主義を排せよ 三輪田繁子(談)

夕③赤城山などの湖沼伝説かずく 東京高師教授 藤沢衛彦(談)

師教授 藤沢衛彦(談)

夕③どんぐり風船「童話」(1) 吉田初太郎

夕③どんぐり風船「童話」(1) 吉田初太郎

11日(日)

朝④阿字ヶ浦 桐生臨海学園(4)

朝④阿字ヶ浦 桐生臨海学園(4)

夕③幼妹等「短歌」 中曾根白史

夕③夏ごもり「短歌」 角田せつ子

夕③山荘の夏 竹内越村

夕③花蔭、パラソル「詩」 岡部宇二郎

夕③雑司ヶ谷雑記 原静枝

夕③緑蔭清涼剤(1) 「棕櫚の木」 佐野嶽夫著 横堀真太郎

夕③農民文学論の検討 小須田君の誤べうを指摘す 大野金治

夕③林中の書 柚木厚太郎

夕③山の児を育む臨海学園を訪ね 臨海学園生徒職員

12日(月)

朝③赤城大洞湖に浮べたモータボート初乗り 赤城山クラブハウスの備品として 岡本部長桑原博士一行検分(1) 松崎

13日(火)

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(5)

尋五 田村モトエ

夕③日本を世界の公園とし度い 観光客による利益莫大 国立公園実施の急務叫ぶ

夕③エロチックな近代女性の姿態 洋装の美観と誘惑 高田義一郎(談)

14日(水)

朝④阿字ヶ浦 桐生臨海学園(5)

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(6)

尋六 町田裕子

夕③西欧文化模倣の真価は此処に誤れる外

人の謗り 鶴見祐輔(談)

夕③紙上講座 行住座臥常に浄らかに 真実の心を持ちて生き行く者は幸也 富士川 游(談)

15日(木)

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(7)

尋五 根岸幸江

夕③保健と節約に無砂半搗米を奨励 砂搗白米は栄養上に健康上大なる損失 生活改善同盟常務理事 吉武定夫(談)

夕③主婦の心懸で趣味豊富な家庭 廃物利用も趣味の一つ 山本久栄

16日(金)

夕①海の宿より 日赤夏期海浜学校便り(8)

尋六 栗原恒代

夕③母性たるの自覚を一般婦人に望む 男子の持たぬ尊さ 山田わか(談)

夕③偉傑ムツソリーニの心境と周囲 何が彼の周囲を心服せしむるか 鳩山春子(談)

17日(土)

朝④台湾に活動する上州人の昨今 台北群馬県人会常務幹事 小園江隆哉

夕①海の宿より(9) 尋五 馬場琴子

夕②上毛怨霊跡 鍛冶塚縁起 宇津木義祐

夕③父母の義務と子供の権利 強く賢く善く育て、貰ふ権利を尊重せよ 少年審判所 天羽(談)

夕③美術に現れた日本の国民性 鳥居の美と

潔癖に就て 伊東忠太(談)

18日(日)

朝②池上画伯一行上州の神秘探勝 吹割の

瀧、丸沼を賞し菅沼舟遊に興を恣にす

夕①海の宿より(10) 尋五 大和ふみよ

夕②上毛怨霊跡 赤地藏由来 宇津木義祐

夕③三保の松原 松美佐雄

夕③妻と並んで、藪塚温泉にて「詩」 岡部宇

一郎

夕③農民文学の諸問題に就いて 大野金治君

に答ふ 小須田薫

夕③黄色い恋 小橋力

夕③緑蔭清涼剤(2) 「野」 木山捷平著 横堀

真太郎

20日(火)

朝③秀畝画伯一行菅沼探勝

朝③八丁滝真景「画」 池上秀畝

夕①海の宿より(11) 佐賀山房子

夕②上毛怨霊跡 小栗上野の死 宇津木義祐

夕③婦選に対する賛否の意見 女子教育研究

室での面白い調査

夕③山岳の味ひは溪谷にある 山嶺の美は平

凡なもの 冠松太郎(談)

21日(水)

夕①海の宿より(12) 尋六女 鈴木杏子

夕②上毛怨霊跡 上杉姥の塔 宇津木義祐

夕③不良少年少女を作り出す家庭 先づ親の

教育が必要 子の心理を理解せよ 東洋

大学教授 高島米峰(談)

夕③廃娼を転機に婦人観は一変せん 公娼制

度廃止は我国婦人の最重要問題 廃娼聯

盟委員長 松宮弥平(談)

22日(木)

夕①香港より 清水留三郎

夕①海の宿より(13) 尋五 神保功

夕②上毛怨霊跡 船木観音記 宇津木義祐

夕③家庭は唯一の平和と愛の世界 婦人は家

庭平和の保持者 桑原随旭(談)

夕③行儀の悪い子は成績も良くない それは

不健康から来るもの 竹内茂代(談)

23日(金)

朝④農民教化と娯楽に映画を活用す 農村男

女の離村防止に

夕①海の宿より(14) 尋六女 飯塚芳

夕①印度洋にて 太田中学校長 湯沢徳治

夕②上毛怨霊跡 お諏訪ヶ淵の怪火 宇津木

義祐

夕③衛生観念に乏しい日本人 微細な点にも

注意して衛生に適ふ可し 日本女子大学

教授 井上秀子(談)

24日(土)

朝④鮮満に於ける上毛人の事業と人

夕①海の宿より(15) 尋五 山口健男

夕③何故に米国では離婚が多いか 彼地の婦

人は有利なる立場にある 立教大学教授

大館堯寿

夕③原始仏教より見る道德の二方面に 東京

帝大教授 木村泰賢(談)

25日(日)

夕①海の宿より(16) 尋六 馬場仁

夕③合歓咲く道「短歌」 田島武夫

夕③早廻り房総漫謡記(1) 佐々木緑亭

(9月8日③)

夕③いなめのめ会例会「記事」 仲春／「俳句」

春、木人、楚水、一草

夕③佐野の船橋の歌碑について 須藤泰一郎

夕③道づれの男 浅間登山の実話 中野篤夫

夕③青山丈夫君の「白きベツト」を読む 小

野忠孝

27日(火)

夕③家庭生活の改善は僅かな心の置き方で

何より無駄を省くこと 塚本はま子

(談)

夕③空の世界来る 航空智識を広めよ 交通運

輸国防上の機関 安全率は陸上よりも大

海軍航空隊本部大佐 菅原正雄(談)

28日(水)

夕③弱い子供を丈夫にするには 消極的では

駄目 肺臓の弱い子 岡田道一(談)

夕③大沼の伝説 信州の小唄

夕③初秋些談 景勝の地の伝説と民謡 河口湖

畔の腰掛石の話

夕③美容の第一歩は精神美による 皮膚の手

入が肝要です 菅野田鶴子(談)

29日(木)

夕③児童の教育 偏狭すぎる従来の方針 日

本女子大教授 正田子淑 (談)

夕③ 児童の描くクレイヨン画 その欠点と指導に 東京美術学校師範研究会の発表

夕③ 母の為めの音楽のお話 小泉治 (談)

30日 (金)

夕③ 伝説が物語る女権国の日本 男尊女卑は仏教儒教の影響からである 東京第一高等女学校々長 市川源三 (談)

夕③ 時代の変遷と婦徳の道 山田やす子 (談)

夕③ 「金精」「半月」を越えて(1) 前橋家政女学校助教諭 八子三郎 (9月3日③)

31日 (土)

夕② 芸術的教育も何処迄も常識的に 女教員音楽講習会に来県した幾尾教授の御はなし

夕③ 天与の母乳でも親の健康如何で害どんな場合に授乳を中止せねばならぬか 三枝敏 (談)

夕③ 飛行の夢想から世界一周まで 日本では何時から 航空展から <子供へのお話>

夕③ 民衆化すべきスポーツの本質 記録本位を排し国民生活の中に織り込め 吉田章信 (談)

昭和4年 (1929) 9月

1日 (日)

朝④ 教育音楽からジャズを排せよ 児童用歌曲の廃頽を憂慮する教育当局

夕② 珍名「女給貞操聯盟」東京一万六千の

プロンさんが団結して近く産れ出る

夕③ 法師温泉にて「短歌」 田島武夫

夕③ 父母に寄する「短歌」 菊園ろえふ

夕③ 折々の随筆 A 停車場、B 日曜日、C 煙草、D 礼儀、E 枕、F 水わるさ、G 南小路 薫

夕③ 農民文学論再吟味 大野金治

夕③ 「旅と酒と恋」を読む 石山己之吉

2日 (月)

朝③ 小説「毒薔薇」の執筆者羽太博士自殺す 今回が二度目で遂に死亡

3日 (火)

朝② ライオン首相にライオンの画 和田画伯執筆して獯猛な処を贈る筈

夕③ 学期初めに心身の緊張が必要 休暇中の自由生活に家庭の訓戒が必要です 東京府立三中校長 広瀬雄 (談)

夕③ 文化の建設は須く宗教を基礎 物質的科学的発展も道徳に欠けては駄目 佐伯定胤 (談)

4日 (水)

朝③ 羽太博士の遺稿毒薔薇は引続き掲載 前に全部書き下し済み

夕③ 研究心の足りない日本の家庭婦人 家事育児其の他研究を要す可きものが多い 棚橋源太郎 (談)

夕③ 不妊娠の原因は何処に在るか 無病健康体は普通結婚後三年内に妊娠 樋口繁次 (談)

5日 (木)

夕③ 家庭の幸福は生活の余剰から 形式よりも内容の充果 三輪田高等女学校長 三輪田元道 (談)

6日 (金)

夕③ 秋の果物に興深き盛物 味覚を満足さす前に優雅な趣味も味はへ 渥美宗人 (談)

夕③ 英国に於ける女権の伸張振り 非常な相異を見る二十年の昔と今日 金子しげり (談)

夕③ 事実怪談 長楽寺深夜の怪(1) 水沙之吉 (談)

夕③ 事実怪談 長楽寺深夜の怪(1) 水沙之吉 (9月7日②)

7日 (土)

夕③ 迷信を棄て、生活を合理化せよ 無意味な悩みで能率削減も甚し 三輪田元道 (談)

夕③ 生活改善と訪問日の一定 岡田政子 (談)

夕③ 海の中に住む不思議な動物 電気を起す魚や懶け者など(1) (9月10日②)

夕③ 海の中に住む不思議な動物 電気を起す魚や懶け者など(1) <子供へのお話>

8日 (日) 「短歌」

朝① 祝 伊香保ケーブルカー開通

夕③ 群馬民謡協会の人々に与ふ 村上正太郎

夕③ 谷川岳 茂木信太郎

夕③ 立秋 K子に送る「短歌」 船津重夫

夕③ 身辺雑詠「短歌」 茂木喜一郎

夕③ 日曜会、八月例会詠草(八月二十五日、

- 城春莊にて「短歌」 清水政福、中野照雄、甲藤庫太、速水清、清水昇吾、富山昇、井上貞次、小嶋弥十郎、岩瀬繁、岩井しと江、早水城春
- 10日(火)
夕②きのふ雨の柳座に人間同志の叫び 平野氏中止を命ぜられただけ 盛況裡に平穩に終る
- 夕②早川翁の遺稿歌集出版成る 早川滝太郎 歌集
- 夕③詩の秋 自然の静寂 心高ければ自然は常に美しく淨し 田村剛(談)
- 夕③伸びよ覚めよ日本の女性 大に体格改造を提唱す 東京市衛生試験所技師 永見 団次郎(談)
- 11日(水)
夕③冬の衣服に綿入れを排せよ 労力経済の点から見て大なる損失 東京家政女学校 長 大江スミ子(談)
- 夕③秋のリズム 落葉「童謡」
- 12日(木)
夕③子供の教育指針は童話で行へ 雑然たる指導は危険 困難な性教育も童話で 日本童話協会 芦谷重常(談)
- 13日(金)
夕③人口問題に於ける民族優生と酒 酒毒、結核病、梅毒は民族頹廢の原因 小塩完次(談)
- 14日(土)
朝③師の靈を祭る(1) 少年の時を追憶して 高等師範学校教授 中島信虎/佐々木愚山先生 東山道人 (9月19日(6))
朝③県下代表美人 上毛新聞社で募集 全国の有力三百新聞から推薦し更に全国代表選定「告知」
夕③国民的家庭経済 婦人の自覚と勇氣を望む(1) 東京府第三高女教諭 中沢美代子(談) (9月17日(2))
夕③ラヂオの童話 月姫の涙「童話」 岩村安子
夕③阪妻秋季超特作映画 潮に乗る北斗 15日(日)
夕②「緊縮」のなぞに女工さん達から質問 婦人相談所の窓から覗く若い娘の生活の 目覚め
夕③空虚な人々 高橋吉之助「詩」 朝の詩 横坂勇/吾家の春 高橋富次郎/土に 親しめ 文生子)
夕③山 佐々木善作
夕③虫「詩」 小野忠孝
夕③支那伝奇 幸を拾った少年 西川林之助
夕③迎乙伯号所感十三章「詩」 大沢雅休
夕③道木温泉行「短歌」 植村祐三
夕③生活余情「短歌」 塚田きよ子
夕③新秋六章「短歌」 青木夏子
夕③心くやしき「短歌」 須藤長太郎
16日(月)
朝③民謡とジャズの夕 上毛楽壇、秋の第一声
- 三島一声氏主演大音楽会 来る廿二日昼 夜開演「告知」
- 17日(火)
夕③初秋は出産のシーズン 安産の秘訣 妊娠と糞尿との関係 脚気症防止に胚芽米 吉岡房子(談)
- 夕③日焦け直しの秋の化粧法 マッサージの 仕方に注意 メイ牛山(談)
- 18日(水)
夕②四十年の生涯を児童の訓育に 父子孫の三代に教へた室田校清水教員の謝恩会
夕③食物の改善は栄養を第一に 安価にして 栄養に富める合理経済物を奨む 佐伯矩
夕③児童無視の社交娯楽を改めよ 休日には 終日子供と一緒に遊べ 生活改善同盟会 理事 土肥脩作(談)
- 19日(木)
夕②ローマにて 大中校長 湯沢徳治
夕③米國フランク博士若返り法発表表
- 20日(金)
朝③郷土芸術の粹を集め民謡とジャズの夕 来る二十二日柳座にて上毛新聞後援にて 開催
夕③身体養護の理想 健全なる肉体には健全なる精神宿る 富士川游(談)
夕③見るに堪えない婦女虐待の事実 社会を 呪ふ売笑婦の生活と其惨たる内幕 松宮 弥平(談)
- 21日(土)

夕③教化動員と婦人の使命(1) 山脇房子

(談) (9月25日(2))

夕③理想の結婚は同一境遇者に限る 富貴名

門の妻女は虚栄心の為に破綻の因 高島

米峰(談)

22日(日)

夕②「民謡とジャズの夕」愈廿二日柳座で

本社後援、堂々たる顔触れ期待さるゝ当

日の盛況

夕②募集敬神標語にふるつた応募 女学生の

は女学生らしく曰く「神は愛なり」

夕③文学に現はれた徳川中期の世相 川口準

太郎

夕③憑月洞偶言 平井晩村氏の俳句について

高須茂

夕③おもひで「詩」 小野忠孝

夕③山水漫吟「短歌」 黒羽静子

夕③八月病「短歌」 青山丈夫

夕③磯部行「短歌」 岸とらを

夕③友の顔「短歌」 つとむ

23日(月)

朝②上毛楽壇の秋を飾る柳座のジャズ 上毛

新聞後援で熱狂裡に二十一日昼の部を開

催

朝③朝鮮を研究するに絶好の機会だ 上毛新

聞社主催の視察団 朝鮮博を中心に満鮮

旅行

25日(水)

朝②朝鮮とところぐく 日本新聞大会に参加し

て(1) 篠原蕭々子 (10月1日(6))

夕③家庭生活に予算樹立を強調 消費法が下

手では家も国も亡びる基

26日(木)

夕②県教化総動員と経済緊縮の協議 政友派

委員は顔を見せず 宛然民政派大会の光

景

夕②十一月の末迄に字毎に講演会 国体観念

を明らかにする教化総動員の計画

夕③自己を知るは修養の第一歩 現代の青年

の物質欲と精神生活の必要に就て 深作

安文(談)

夕③日本は世界平和の先駆者たれ 尾崎行雄

(談)

27日(金)

朝④今秋戯曲界の一大収穫 菊池寛氏新作

夕③政治の浄化は婦人の手に於て 疑獄事件

の頻出に際して自覚を望む 山田やす子

夕③眼は心の窓人の奥を鏡に掛く 是も社会

に処して知らねばならない

28日(土)

朝③各地の教化団が運動を開始す 先づ婦人

会と禁酒会で

朝④知事夫人陣頭に婦人会の活動 公私経済

の節約に努力 (栃木版)

夕③軍縮よりもつと根本的平和手段 戦争の

憂あるが故に軍備がある 東大教授 川彦松(談)

29日(日)

夕③万葉集伊香保の歌(1) 大沢雅休

(11月3日(4))

夕③秋の避病院「詩」 横堀恒子

夕③老子の行衛 川口準太郎

夕③秋の朝「詩」 岡部宇一郎

夕③秋・香・色・型・音(逆説第一章) 清水

房之丞

夕③第六回赤城短歌会詠草「短歌」 赤木馬

彦、鈴木葦舟、市川多嘉志、大原絃月、

新井省三、金沢金夫、栗田登喜次、庭山

緑雨、登丸赤湖、須藤長太郎、鈴木富士

江、新井恒雄、鈴木千代子、大沢政治、

松井岩居、小此木露葉、横堀かなめ、橋

本義久、関口美子、石原安近、阿原静歩、

北爪しよう、岩上千秋、鈴木秋水、田村

かつ子、登丸とみ子、根岸遊子、登山ひ

ろ

夕③山中独居「短歌」 中曾根白史

夕③九月閑吟抄 初秋、足曳庵を訪ひて、大我

園風景「短歌」 早水城春

夕③雨日「短歌」 塚田きよ子

夕③たくはつ「短歌」 三木紅風

夕③秋季雑詠「短歌」 吉岡芳水

昭和4年(1929) 10月

1日(火)

朝②神代の昔をそのまゝ 愈御遷宮本祭へ今

一日前儀行はせらる

3日(木)

朝③燈火雑譚(1) 墓地の中でお稻荷様大繁昌

夢枕に立つた御神体は白狐參三郎と申す

4日(金)

朝③燈火雜譚(2) 煙火大会は緊縮逆モーシヨ

ン一発百円の巨弾が三十秒で消える話

夕③弊害を伴ひ易い贈答の心得 形式、外形、

虚礼、虚飾を廃し度い 塚本ハマ子(談)

夕③国民性の自覚と国家的信念 徒らなる模

倣は国民及び国家を冒瀆す 紀平正美

(談)

5日(土)

朝③燈火雜譚(3) お囃子渡世ジヤズ時代を驚

かない豪の者 竹本喜光の快気焰

夕③日本人の気分には虫が多過ぎる これを

徹底的に除去せねば楽しい生活は出来ぬ

新渡戸稻造(談)

夕③結婚シーズン！大切な見合心得 先方の

性格に応じて慎重な態度を採れ

6日(日)

朝③燈火雜譚(4) 変り易い秋の空のお話し場

末の上空の下に画く秋晴の情緒

夕③山莊漫筆 早水城春

夕③成りて候、あの頃「詩」 塚本篤夫

夕③悪汗少々 田島嘉之

夕③彫刻の写実主義 神田古畔

夕③債鬼 小須田薫

8日(火)

夕①鮮満の旅(1) 本社視察団 大山湖南

(11月1日へ回数不明)

夕②モノコで 清水留三郎

夕③神宮崇敬の念と国体観念の発揚 君民の

特殊関係は我国体の精華である 三浦周

行(談)

夕③徳性は子供時代に涵養されたい 家庭教

育は母が中心となる 黒崎悦子(談)

9日(水)

夕③最も重視すべき社会教育の映画 年少不

良の動機も映画 当事者の自覚が第一

橋高広(談)

10日(木)

夕②維納より 清水留三郎

夕②長崎丸にて 森川抱次

夕③歩き出す頃の幼児扶育の注意 無理に歩

かせるな 周囲に物を置くな 森嶋幼稚園

長のお話

夕③秋三首「短歌」 内野保禄

夕③国民主義の信条 蜷川新(談)

夕③秋の映画界(1) 人を喰つた時代映画「オ

イコラ行進曲」

夕③文壇諸大家が集つて「仇討浄瑠璃坂」合

評会 続いてBKから直木氏が放送

11日(金)

夕②ベルン市より 清水留三郎

夕③日本民族の使命は何か 崇厳幽玄なる国

体で世界文化を導け 深作安文(談)

夕③再びロシア映画を語る 袋一平

夕③今日のラジオ 童話劇 子供の時のお祖母

(1のみ確認)

さま 名和ふたば

12日(土)

夕③消費の合理化の為考慮を要する 不要消

費を省け、織る者と着る者 岡実(談)

夕③秋は上野の帝展より立ち始む 南薫造

(談)

夕③重大な関係にある婦人と消費経済 主人

の収入で家庭に満足を与へるは婦人 日

本女子大学教授 井上秀子(談)

13日(日)

朝③前橋婦人会が教化動員講演会 米峰氏を

聘して開催 仏教会でも近く開催

夕②前中出の三人が揃つて美事選へ 初入選

の内海神田両氏 奇しき因縁、恩師の喜び

夕③秋空に「短歌」「書」 内海保禄

夕③谷川岳「短歌」 須藤泰一郎

夕③北原白秋の芸術 生田春月

夕③西毛歌壇の鳥瞰 田中秀業

夕③秋の山に「詩」 大槻三好

夕③いなめの例会会「記事」 仲春／「俳句」

歌男、赤陽子、寒鳩、仲春、茂樹、楚

水、香山、木人、吐秋、茂勝

夕③秋季遠足「短歌」 瀬戸弘道

15日(火)

朝③鮮満産業大観 本県及び前橋市から視察

を囑託されて(1) 篠原蕭々子

(11月3日(20)

夕①伯林より 清水留三郎

夕③日本国民の生活法の決陥 本来の意義に

遑つて習慣様式を批判せよ 棚橋源太郎

(談)

夕③秋の句会(霜石庵にて)「俳句」 火鉢

霜石、止風、紫草/落葉 霜石、止風、

紫草/納豆 止風、霜石、紫草/大根

鶏肋、止風、紫草

夕③重要視すべき家庭燃料問題(1) 三井物産

特約店金井商店鋤油部 岡田主任(談)

(10月16日(2))

16日(水)

朝②歌御会始めの奉行者仰付らる

夕③感情の教養で心の迷ひを解け 精神病学

から見た心の迷の原因色々 三宅敏一

(談)

17日(木)

夕③人生と文化 創造の力 鷺尾順敬(談)

夕③悪癖の矯正にけなげな少女達の努力小

林立教高女校長の面白い調査

19日(土)

夕③国家存立に必要な民族精神の発揚 西晋

一郎(談)

夕③知識欲旺盛なアメリカ婦人 育児法も上

手なもの 金森久和子(談)

20日(日)

夕③かきねみち「短歌」[書] 須藤泰一郎

夕③秋月下の歌「詩」 小野忠孝

夕③晩村の手簡から 川口準太郎

夕③三人集「短歌」 秋風吟、曼珠沙華、折柄

雨降り出でしかば 黒羽静子/良夜想聞

大友農夫寿/秋に歌へる 北上柳二

夕③コスモスの秋、秋の風、秋の夜「詩」 岡

部宇一郎

夕③偶感種々 早水城春

22日(火)

夕③国家将来に憂ふ可く物質文化の余映避

苦享楽は社会の自滅 潑瀾たる青年意気

が必要 滝沢弥(談)

夕③速かに吾等婦人に選挙権を与へよ 政治

の浄化、社会の浄化は婦人の手で 吉岡

弥生(談)

23日(水)

夕②伯林から 清水留三郎

夕③他国と異なる我が民本主義 是が我国体

の基礎である 三浦周行(談)

夕③就職難は何に基因するか 人材少く短才

の徒が余りに多いからである 添田敬一

郎(談)

24日(木)

朝③郷土芸術の殿堂 上毛美術展覧会開く十

一月十五日より五日間 元の商品陳列所

に於いて

夕③結婚年齢の一考察 男子二十歳女子十七

歳を最低年齢としたい 第一高等女学

校々長 市川源三(談)

25日(金)

夕②中流以上の婦人に勤労思想涵養 谷内前

橋刑務所長の主唱で設立された有意義の

会

夕②白国首都より 清水留三郎

夕③人間の性格は環境で決定する 先天性の

性格はない 子供を総合的に見よ 富士

川游(談)

夕③小学児童の弁当改善 高野薫(談)

夕③道徳上の罪悪と宗教上の罪悪 対人関係

と対神関係 懺悔の生活に新生あり 高

島米峰(談)

26日(土)

朝②長途の旅を終つて満鮮視察団帰る 何れ

も実に愉快だったと語る 我社の計画有

意義に終了

夕②上毛を代表する典型的の美人 本社で特

に推薦する高崎の細谷雪枝さん

夕②曲目もきまつて期待集る放送 晴の舞台

に立つ吉田静代さん 予習は素的な出来

夕③日本人の生活に時間の無駄が多い 過渡

期にある吾人よ 時間励行から文化へ

生活改善同盟理事長 土肥脩策(談)

27日(日)

夕③生活の単純化で国の窮乏を救へ 旧来の

生活方法を根本的に改変せよ 土肥脩策

(談)

夕③落日や「俳句」[書] 高橋香山

夕③五人集「短歌」 逝く秋 岸とらを/秋

は寂し 角田節子/故里を訪ふ 永井す

み夫/遠足その他 飯塚きん子/尋常六

年の友 北上柳二

29日(火)

朝③全国郷土舞踊と民謡大会開く 本県は獅子舞と豊年踊 日本青年館で取纏め中

夕③社会的バクテリア不良少年の救済 我子の愛に眩惑されず 家庭教育社会施設で救済 少年審判所長 植田糸三郎(談)

夕③漫談 電球即提灯 電球創始記念に際して 天野雉彦(談)

夕③婚礼の祝ひ物は必要品を聞いて選べ 岡村慶子(談)

30日(水)

夕③国際主義の進展と国民主義の台頭 一方的觀察に陥らず民族的自覚を強調す 北吟吉(談)

31日(木)

夕③社会浄化と婦人の純情 婦人の宗教的信念の発露は男子より強大 救世軍本部 瀬川八十郎(談)

夕③妖蝶秘曲「講談」(1) 中川雨之助

(翌年7月5日(金))

昭和4年(1929) 11月

1日(金)

夕②巴里にて 清水留三郎

夕③現代人の宗教は何処に求むべきや 健全なる常識にて真と思ふ中に善を 矢吹慶輝(談)

夕③紅葉の妙義山「画」 龍嶽童

夕③夜の妙義(1) 柳

2日(土)

(11月2日(2))

夕③憂慮すべき国際経済戦の結果 国際的経

濟協調が必要 高柳松一郎(談)

夕③晩秋の妙義神社「画」 龍嶽童

3日(日)

夕②神主さん教化動員 巡回敬神映画

夕③くさつかの「短歌」「書」 大沢雅休

夕③書斎、放馬の歌「詩」 小野忠孝

夕③エミール・ギョマンを憶ふ 原沢柳志

夕③花火とコオロギ「短歌」 住谷三郎

夕③隣冬集「短歌」 浦上山夫

夕③われ泣かし山「短歌」 青山丈夫

夕③十月抄「短歌」 菊、秋雑、相聞陳思 早水城春

夕③孝女の犠牲(1) 西川林之助

(11月10日(2))

夕③稚子行列、花馬行列「詩」 岡部宇一郎

5日(火)

朝②卜翁の愛嬢トルスタヤ女史 農業視察の

ために群馬郡相馬村へ来る

夕③婚礼に伴ふ日本の悪い風習 それが虚栄

の原因をなす 塚本はま子(談)

夕③今秋帝展の彫刻に就いて 来秋に期待を

掛く 森口多里(談)

6日(水)

朝③我國民思想を汚濁す憂ふ可き共産党事件

本県人も数名関係して東京へ送らる

三・一五事件其他記事の一部解禁さる

朝③何が彼をさうさせたか 日本共産党事件

に連座した若き人々が左傾するまでの経

路 藤中出身の河村田中久保等の奇しき

因縁

夕③文化発達の裏面に恐る可き性病 亡国的

花柳病数百万に上る患者 森川真郷

(談)

夕③カフエーは何故に盛るものか 近代人の

要求する物を多分に持つが故に 警視庁

技師 金子準二(談)

7日(木)

朝③仏教大会の結果 社会的に活動 釈迦の二

千五百年祭は昭和九年に東京で開催

朝③モスコより 清水留三郎

夕③収入別に見た生活の一般標準 食費に上

下の差少く一般に衣服費を少く

8日(金)

朝①満州朝鮮紹介号

朝②敬神思想標語「目上尊べ神拝め」二等一

席は若林テフ子さん 七日当選者発表さ

る

朝③二旅団の将卒三千 七日前橋に入る 佐倉

聯隊は石倉を中心に麻布三聯隊は前橋市

中へ

朝③上毛美術展覧会近づく 郷土芸術の色調

高き逸品続々として出品 オール上毛人

の大なる期待

夕③時代は進む 婦選実現近し 既成政党婦人

に屈服し此際婦人の自覚を要す 山田や

す子(談)

夕③家庭婦人に研究心が足りない 工夫一つ

で経済衛生趣味に合致する生活 日本女

子大学教授 井上秀子(談)

9日(土)

夕②算術の大家 関孝和氏記念碑 藤岡町城山に建設 十一日盛大除幕式

夕③見栄を捨てた仏独婦人の家庭生活 是非

日本婦人の反省を望む 文部省囑託 土屋許子(談)

10日(日)

朝③今は昔、五十年前 夢の如き追憶 本県師範第一回卒業生木呂子氏をめぐる美談、珍談

珍談

朝③上毛美術展覧会 出品申込はけふ切届

入はいよ〜十二日まで

夕③山の明暮「短歌」 中曾根白史

夕③むく鳥、浅間山噴火「短歌」 松波幸三郎

夕③米はこび「短歌」 三木紅風

夕③本年日本歌壇の概観(1) 大沢雅休

(〜11月17日(2))

夕③飾窓親子鑑「詩」 佐々木緑亭

夕③新秋小記(1) 岡部宇一郎(〜11月17日(2))

夕③女給の唄へる「歌謡」 綱島亀之助

夕③スポーツの日本よ、五年振りに故郷上州へ帰て四首「詩」 高草木暮風

夕③晩秋「詩」 早見狂歩

11日(月)

朝③花のパーリーで美術展に入選 立川町の洋画家南城君 世界の舞台へ進出す

12日(火)

朝③出品申込五百点突破 上毛美術展盛況

夕③吾等の借金一人当金九十五円也 明治卅年の十倍入超続きで

夕③国民としての食物に対する観念 伝統的な食習慣で改善すべき処多し 陸軍省衣糧課長 丸木彰造(談)

13日(水)

朝③大衆と共に行く人(1) 中学教師から和製カーチスに 文壇の黒幕野間清治氏

13日(水)

朝③全上毛人期待の下に上毛美術展開くいよ〜明後十五日から 十三日は審査会 十四日は招待会

夕③青年学徒と誘惑的思想運動 学校当局及び家庭訓育は今後如何にすべきか 文部省学生部長 伊藤延吉(談)

夕③高尚優雅な盆景は家庭的芸術 日本人は先天的盆景家 日本盆景協合理事長 東京高等造園学校 小山譚水(談)

夕③白樹社洋画展を観る 伊藤桐風

14日(木)

朝③郷土芸術の殿堂を築く上毛美術展覧会 いよ〜明十五日から開場

夕②卑俗な流行唄に代る国民の歌を公募 学生までが感染するのを防止の為に文部省の努力

夕③幼児期の感情教育 六才頃に人生のアウトLOOKが定まる 東京聖路加病院社会事業部 小栗将江(談)

夕③亜米利加からコロナプスが輸入した花柳

病の話 初期に全治せぬと恐しい結果になる 長町穆(談)

夕③「子規鳥」の物語「童話」 山下忠三

15日(金)

朝③愈々今十五日開催上毛美術展覧会 郷土芸術の代表的作品を網羅して美術の秋を彩る

夕③日本人に有望なブラジルの水産業 海中に蔵せる無限の富 特殊な技能の邦人を要求 江越信胤(談)

16日(土)

夕③良い玩具の無い国は滅亡す 新しい玩具を要す 武井武雄(談)

夕③仏たらんとせば先づ仏の子たれ 富士川遊(談)

朝③美しくも拗げられた郷土芸術の絵巻 上毛美術展覧会愈々開く

朝③文豪ト翁の愛嬢 トルスタヤ女史来橋して十六日共愛女学校で講演 上毛新聞社 学芸部主催

夕①小春日和に恵まれて上毛美術展開く 七百余点の総出品中から四百点を厳選して陳列

夕③感冒だといつて軽視するな 其弊害並に簡単な予防法 神谷四大加(談)

17日(日)

朝③いよ〜蓋を開けて人氣一層加はる 上毛美術展第二日の盛況 入賞作品も決定

朝③父トルストイを語るトルスタヤ女史 日

露の親善に貢献する本社学芸部主催講演
会

夕③ 鶴體の舞 島岡利二

夕③ ひとりゐる「詩」 須永善晴

夕③ 北かぜ「民謡」 市丸武二

夕③ 妙義七首「短歌」／人もなかりし「書」
内野保祿

夕③ 庭前(帝展出品)「画」 塚本茂

夕③ 日曜会十一月例会詠草(十一月九日夜、
城春荘にて)「短歌」 田島武夫、松井水
枝、小島弥十郎、伊藤庫多、矢野間恒治、
岩井とし江、石田なみぢ、高橋七五郎、
磯貝とり、清水政福、高橋正一、高田ね
い、浦部いさ、磯部忠夫、磯貝秋三、加
藤清、安部はるの、佐々木なみ、井上貞
次、松浦元男、矢野間まさ子、根本英二、
早水城春

夕③ 洪川秋季短歌大会 林徳寺に於て「告知」

18日(月)

朝② 露国の珍客トルスタヤ女史 父を思ふの
情切々 十六日講演会の大要

朝③ 上毛美術展 第三日は人氣の最高潮 折柄
の日曜に絶好の日和

19日(火)

夕③ 我国に於ける近代の思想的傾向 国体を
忘れ模倣にとられて思想文化の批判力が
ない 鷺尾順敬(談)

夕③ 国運進歩の裡に世界平和を維持 現代思
潮は総て平和モットー主義 杉村陽太郎

20日(水)

朝③ 本社の上毛美術展十九日で閉会す 空前
の大成功を納めて

夕② 上毛美術展民衆審査 二十日附で締切 二
十三日附朝刊で発表

夕③ 中等教育の本旨と入学最善の方法(1) 教
育の機会均等主義と智徳併行が教育の要
諦 東京日比谷小学校長 中沢留(談)

夕③ 青年に依つて文化は盛衰す 教育の最も
大切な時期は幼少のとき 下田次郎
(談)

21日(木)

朝③ 神戸本県人会開催 郷土愛に浸る「上州
小唄」に故郷を偲び朝日会堂に上州村出
現

夕② 人氣を高潮した上毛美術展の投票 二十
日午後十二時締切り

夕② 前橋市の園児学童の悪い癖を調査す 身
体的と精神的に分つて狩野市医が矯正を
図ると

夕② 小栗上野の遺子須磨の居で死 幕末偉人
の忘れがたみ

夕③ 中等教育の本旨と入学最善の方法(2) 学
科試験の諸弊、内申制と抽籤制 東京日
比谷小学校長 中沢留(談)

夕③ 文化と共に食品の嗜好も変る 現代は混
食の時代 果物も栄養目的に

夕③ 日本人はもつと牛乳を飲め 決して贅沢

22日(金)

夕③ 品でない 国民保健に必要飲料
全身の容態が判る児童の顔形変化 顔は
身体の縮図なり 子供の顔貌の注意せよ
竹内薫兵(談)

夕③ 緊縮節約と国民経済の合理化(1) 米国の
繁栄は何故なるか 林毅陸(談)

23日(土)

朝③ 本社主催上毛美術展 民衆鑑査の成績 二
十日午後十二時投票締切結果

夕③ 泥山は「短歌」「書」 尾上紫舟

夕③ 魯を去る孔子 川口準太郎

夕③ 農民の父、土の殉教者ドクチャ・エフに
就いて 原沢柳志

夕③ 法師小唄「民謡」 直木三十五

夕③ 村上鬼城翁句碑建設記念大句会(1) 大竹
雨香

夕③ 「アダムの首」と「郷愁」と 萩

夕③ 落穂集「短歌」 死なば秋 南小路薫／
秋の歌 小板橋幸／秋雨雜詠 桑原しぐ
れ／秋立つあした 三木虹風／逝く秋
杉山雪子／宮城村点景 海野哲治郎／吾
家の菊 瀬戸弘道／ポプラ 若月文鳥

27日(水)

夕③ 緊縮時代でも無味乾燥に陥るな 家計の
範囲内で休養娯楽の方法を講ぜよ 棚橋
源太郎(談)

夕③ 肺病は治らざるにあらず 治さざるもの

肺病の熱のことども二三(1) 西田芳雄

(〜11月29日(3))

28日(木)

夕③人生の幸福と国家社会の興亡 健康は幸

福の源泉 希臘、羅馬の衰亡は何 文部省

体育研究所長 北豊吉(談)

29日(金)

夕②上越国境を貫く東洋一、清水トンネル 鉄

道省でス井ツチを捻り トンネルで岩壁

爆破の記念事業

夕③権利の主張より先づ義務を尽せ 日本婦

人には実行力と決断力が乏しい 新渡戸

稲造(談)

夕③体育遊戯として追羽子を奨む 岡村慶子

(談)

30日(土)

朝④文部省が留意する女教資質改善 男教員

に比し低下

夕③労働の種類と呼吸器病の関係 金属労働

者に多い 最近英国で行った調査

夕③戸外労働の婦人にヒステリーは少い 主

婦は炭火中毒から神経持ちになり易い

空気衛生展から

夕③国民及宗教的劇作品の必要 国民思想の

善化を計るに最も適当か 鷲尾順敬

(談)

昭和4年(1929)12月

1日(日)

朝③日本共産党結社事件に加担の本県人八名

有罪 前橋地方裁判所で嚴重審理 三十日

予審終結公判に附さる

夕③初冬随筆 須藤泰一郎

夕③コータンヤ(広東軒の唄)「歌謡」 西川

林之助「記事」 柳

夕③秋の句会「俳句」 路石、文船、止風、鶏

助、紫草

夕③戦争 杉田謙作

夕③吾子の死「短歌」 危篤、死去、墓参、追

慕、吾子の死を悼むとして「朝顔にねむり

さめざる童子かな」と句をおくり来し人

へのかへし、他歌をくれし友へ 高橋平

三郎

夕③幕舎、霜、身辺雑詠「短歌」 村山広郎

夕③村上鬼城翁句碑建設記念大句会(2)「記

事」 大竹雨香「俳句」 秋風 茶蔓、芋

蔓、つる女、染外、刀水、好文木、梨庵、

南崖、螢草、耕人、二橋、歌庭、一秋、

敦光、香山子、和蝶、蘭岳、湖月、一念、

野多路、史城、龍風、花友、芙蓉峰、白

蛾、仙松、草丘、仙花、瓊果、翠蛾、九

一郎、愚坊、卯舟、百竹、天羅子、祐三、

婉外、志嶽、楽水、可香「鬼城選」 雨

香、野多路、仙花、婉外、香山子、ひろ

女、春翠、崇山、染外、刀水、松月、二

橋、南崖、楽山、好文木、武夫、文紫陽、

祐三、可香、うしほ、草丘、仙松、舟子、

孤月、螢草、刀水、花明、敦光、茂樹、

白蛾、三嶺、芙蓉峰、楽水、春翠、蝶々、

勝風、聖石

3日(火)

夕③家賃値下げの如く禁酒運動を起せ 国民

一人々々が毎日七銭の酒代を支払ふ 小

塩完次(談)

夕③経済状態と犯罪との関係 司法省刑事局

西山為一(談)

4日(水)

夕③緊縮節約 改善打破すべき宴会での悪習

酒杯の猷酬食品の雑多、男のみの会等

土肥脩策(談)

夕③国家興亡にも係る結核病の死亡率 日露

戦争や震災にも優る恐るべき亡国病 浅

田一(談)

5日(木)

夕③不況時代の産物、債券を種に不正漢出沒

甘言に乗らぬやうに勸業銀行から御注

意

夕③我日本の時計の変遷 渡辺修二郎(談)

夕③緊縮節約時に歳暮の贈答 国民に範を垂

れ給ひ聖上の大御心を想え

6日(金)

夕②年の瀬の悩みを警察へ持込む群 人事相

談の忙しさが語る殺人不景気の深刻さ加

減

夕③先づ赤ん坊に乳首を吸はせることや母乳

不足を訴へずに済む秘訣 至誠堂病院長

吉岡弥生

夕③金銭的に見た人間の一生ダブリン博士
の面白い統計

7日(土)

夕③因襲を打破して広幅織を奨励 凡ゆる点
から必要と商工省で力を入れる

夕③玩具時代は去りて羽子板も実用化す 但
し押絵は依然流行 クリスマス物に新案

8日(日)

夕③豊旗雲「短歌」 吉田緑泉

夕③峡に入る路「短歌」 田島武夫

夕③明治秘録大隈文書展覧会を見て 川口準
太郎

夕③いなめのめ会「俳句」 歌男、三笑、茂樹、
赤陽子、仲春、吐秋、雨亭、帆十、香山、
杏人

夕③冬の上州(1) 横地正次郎(〜12月15日(2))

夕③越後より 石地浜「俳句」 古屋寛二

夕③縹渺 竹内越村

夕③郷土劇壇の不振を嘆く(1) 根岸良輝
(〜12月22日(3))

10日(火)

夕②社告 前広東嶺南大学日本語教授草野心
平右者今回編輯局員として入社

夕③細民救済と産児制限問題 人口食糧問題
解決に産児制限を提唱す 東京市社会局
長 安井直一(談)

夕③何故農村児童は身長が低いか 体重も従
つて軽いしかし骨格は健康

夕③軽視し易い動脈硬化の兆候 愛煙、酒豪、

肥満者に多い 永末脩(談)

11日(水)

夕③自然が与へた女子の重大使命 女権云々
を論ずるより家庭の重大さを考へよ 山
脇房子(談)

夕③迷信の打破と生活の合理化 高島米峰
(談)

夕③山男と豆助「童話」(1) 白井史郎
(〜12月17日(5))

12日(木)

朝④学生の思想対策 文部省腐心す 学生の自
治精神を破壊せぬ程度で厳戒する

夕③病気を恐れず病菌の侵入を防げ 機械的
除去法と化学的消毒法 東京市技師 永
見団次郎(談)

夕③咽喉の病気から種々の病気に 本田雄五
郎(談)

13日(金)

朝④女人教育の作興を計画 調査会を設置し
て新進日本婦人を作る

夕③政界浄化は婦人参政で出来る 時期尚早
論は排撃し即時断行を提唱する 吉岡弥
生(談)

夕③若い婦人は何故に結核に罹り易いか 婦
人の一ヶ月は二十五日 吉岡弥生(談)

14日(土)

夕③真剣に考へられたい女性と廃娼 延ひて
は結婚に危険を伴ふ問題 廃娼聯盟委員
長 久布白落実(談)

15日(日)

朝②選挙改正調査会設置に問題は婦人参政権
政府与党間にも反対多し

朝②古典映画の雄ダグラス夫婦が十七日に桜
咲く邦土訪問「早く歌舞伎が見たい」と
車中談

朝④具体化せる実業教育の改善 教育の内容、
制度 両者の改革を期す

夕③緊縮の風寒き歳末(1) 南小路薫
(〜12月22日(2))

夕③海へ捨て、しまへ「詩」 清水房之丞

夕③三波川の小唄「民謡」 森千魁

夕③渋川秋季短歌会「短歌」 大沢雅休、浜田
多懸子、斉藤富吉、南小路薫、深町いそ
子、三枝保子、高橋平三郎、小沢朝一露、
丘野緑風、羽鳥愁雨、小川千代、八木耕
奈子、神保冷平、後藤福太郎、田嶋武夫、
城木雄作、浦和尚子、加藤岸藏

17日(火)

夕③国家禁酒は世界の大勢 歐洲大陸の諸国
は競つて禁酒に向ふ 貴族院議員 阪谷
芳郎(談)

18日(水)

朝②ダグラス夫妻滞在日程も映画式 素晴し
い急テンポ

朝④軍隊の民衆化 陸軍始観兵式 刑務所跡と
市内大通で行ふ 宮師団と市内各学生
(栃木版)

夕②映画ファン熱狂のうちにダグラス夫妻神

戸へ昨夜上陸して直に大阪へ向ふ騎馬
巡査迄が追ふ騒ぎ

夕③純真な童謡は児童感情の要素 情操を養
なひ童心を發揮し生活を潤色す 三木露
風(談)

夕③いとくり車「童話」(1) 西川満

〈12月21日(4)まで確認〉

19日(木)

夕③一九三〇年の映画の横顔(1)

〈(1)のみ確認〉

20日(金)

朝②富士を背景にロケーションをとダグラス
夫妻の上機嫌

夕③折衷案とも云ふべき入学者採定法 情弊
を一掃し教育の本質的効果を挙げよ 中
沢留(談)

夕③人類進化と優生運動に就て 池田林儀
(談)

21日(土)

朝②「お早ようく」と放送の第一声、ダグ
夫妻横浜へ

朝③社告 鮮満支局閉鎖

夕②「俵屋玄藩」とダグさん交歓きのふ歌

舞伎座訪問 粉装の猿之助と固い握手

夕③少年保護の上から学校は近くを選め 鈴
木賀一郎(談)

夕③大衆文芸の変遷 柴田勝衛(談)

22日(日)

朝③上山草人氏晴れの東京入り 黒山の如く

道を埋めてあびせ掛けるフアンの万歳

夕①ダグ夫妻と草人の劇的会見

夕②チャップリン本当に来るか

夕③父と「詩」 市村京之介

夕③昭和四年詩壇の概観 塩野筍三

夕③題を忘れた詩 四才の子供に「詩」 天野
純

夕③六郷川を下る 秋はさびしき六郷のかわ
たれどこ友とたまたまあそびてうたへ
る、師走情景、冬日閑居、静夜

「短歌」 吉井忠男

夕③新居「詩」 岡部宇一郎

夕③晚秋筍の歌「詩」 小野忠孝

24日(火)

夕③晚秋の国境(1) 綿貫六助(12月25日(2))

25日(水)

夕③本然の自己に還る真の宗教々育 富士川
游(談)

27日(金)

朝①満州朝鮮紹介号 新天地開拓の壮図を抱
いて朝鮮に活躍する人々 本県出身の先
輩奮闘努力の跡 誇るに足る上毛魂の発
揮(高久敏男、早川市五郎、高橋憲司、
荻原三郎、加藤一二、町田貞一、上原実
太郎)

朝②予定より一日をくれて清水トネルの貫
通はいよいよ二十九日と決定す 午後二
時大臣室のベルを合図に竣工

夕③酒や煙草は百害あるも一利なし 老衰は

動脈硬化から古今の長命者は皆禁酒
萩原英太郎(談)

朝①満州朝鮮紹介号 蝸牛角上の生活に飽い
て大陸に雄飛の本県人 新天地開拓の尊
ぶ可き奮闘の記録 満鮮在留県人の活動
振(加藤襄、五十嵐保司、持田彦平、丸
岡菊次郎、坂本恭輔、津久井徳次郎、平
田周一郎、宮沢員也、石井利雄、青木勝)

朝③清水トネル愈、けふ貫通す 江木鉄相
のベルを合図に表裏両日本劇的交歓の日

30日(月)

朝③上越境を貫ぬく轟然たる大爆音きのふ
午後二時五分過ぎ清水トネル遂に貫
通

朝③本県の音楽教育は他県に劣らぬ 研究会
講師として来橋した外山国彦氏の賞賛

31日(木)

朝③男泣きに泣く奥坑内の乱舞 おゝ、あいた
穴からは越後の風が吹いて来る! 清水
トネルにて 須田、土屋両特派員

昭和5年(1930) 1月

1日(火)

③本社主催 炉辺漫談会(1) 政治問題 県会
批判、経済問題 製糸批判、社会問題 經
済教育問題批判(堀田鼎、平田健太郎、
桑原政栄、天谷虎之助、江原桂三郎、島
岡利二、茂木近之助、都木重五郎、竹内
清次郎、高橋清七、高畑弘男、竹内勝蔵、

杉山寅雄、篠原秀吉、村瀬記者

(〜1月6日④)

③群馬 松村琴荘

⑤春駒 [画] 池上秀敏

⑥街頭に一家を背負ふ尊い女性の姿 前橋

市内に見る三幅対 能条操子氏、加藤美子氏、鈴木讓子氏

⑥宿命、境遇の罪は本来の「悪」でない

小供への罰は唯の「方便」 島岡利二 (談)

⑥初春 [画] 木谷千種

⑥馬の神様 [童話] (1) 龍城寺哲夫

(〜1月8日③)

⑥面白いお正月の室内新遊戯 編輯局考案

(1) (〜1月8日③)

⑥一月絵ごよみ [漫画]

⑦初春や [短歌] [書] 柳原白蓮

⑦当来の文学について 青野季吉

⑦秋冬五句 [俳句] 高浜虚子

⑦異国点景 (1) 吉屋信子 (〜1月30日③)

⑦静物 [画] 中川紀元

⑦初午 [童謡] 野口雨情

⑦女工お吉 片岡鉄兵

⑦渚の岩 [短歌] 与謝野晶子

⑧馬揃ひ [講談] (1) 一龍斎貞山 (演)

木俣茂弥 (画) (〜1月11日③)

⑨十干十二支の話 遠藤隆吉

⑨前橋在の農家で最愛の軍馬に解逅したY

將軍の涙馬に関する思出の数々 陸軍

大佐 桜井忠温

①怪奇小説 地下鉄事件 [小説] 山本雅樹

大石哲路 (画)

①春を迎ふる [短歌] 水村

⑬三里塚御料牧場に一頭十萬円の馬 興趣

の多い相馬の野馬追 今でも立つ盛岡の馬市場 馬に因んだ全国の名所と名物

⑮口先馬術 [落語] 柳亭燕橘 (演) 寺元

琴風 (画)

3日 (金)

③晴の御慶事も間近く新春を迎へられた喜

久子姫 婦人の儀表たる御生活振 (1) 元

学習院教授 吉村千鶴子 (談) (〜1月8日④)

5日 (日)

③成人教育講座 農閑期を利用して

③奔馬 [画] 野村雲江

6日 (月)

③ [画] 谷洗馬

7日 (火)

夕①愛馬五人女 (1) 徳川喜和子姫、山本富士江

夫人

夕③主婦の経済的自覚を促す 国家経済の立

直しも主婦の心掛が基調です 山脇ふさ

子 (談)

夕③春駒 (午の歳に因んで) [詩] 佐々木緑

亭

夕③千年の歴史 [漫画]

8日 (水)

朝②新年御歌会 二十九日行はせらる 両三日

中に正式発表 詠進歌三万余首

夕①愛馬五人女 (2) 太田嘉女野女史、荘豊子夫

人、及川道子嬢

夕①諸井華畦女史東京で永眠す

夕②村上鬼城一門新年の句会 [俳句] 武夫、

李童、三嶺、思水、白央、芳雄、鬼城

夕②講演に、映画に 農村に漲る修養熱

夕③お正月の衛生 一に摂生二に後始末 女

子青年会診療部主任 斉藤道春 (談)

9日 (木)

朝④都会集中と離村 北米合衆国と我国と同

軌

夕③母親の見遁勝ちな児童の伸張力 子供の

昼食に就いてもつと考慮が必要 共立女

子職業学校講師 進藤真砂 (談)

夕③溶ける雪達磨 [童話] (1) 楠田敏郎

(〜1月22日⑩)

10日 (金)

朝③より真剣に幼児保育の實際を女生徒に知

悉させたいと女師校の新しい悩み

夕③正月の婦人は指を特に美しく 訪問等の

時の心得二三 遠藤波津子 (談)

夕③お星様と白バラと睡蓮のお話 上和田英

樹

夕③千馬閑に納まる巖谷小波氏 [写真]

11日 (土)

夕③婦人の修養に自制心が大切 克己心の無

い者は奴隷 下田次郎(談)

夕③教育の最重要点は子供の本能教育 少年

保護司 保美駒蔵(談)

夕③舞妓「画」 山川秀峰

12日(日)

夕③ひたひたと「俳句」「書」 高橋香山

夕③天馬讃仰「短歌」 白梅五首、雑詠五首

田島武夫

夕③年改まる「短歌」 瀬戸弘道

夕③馬五題「短歌」 佐藤絶海

夕③街頭禍殃 師走十五日、高崎へ伊勢崎銘仙

を売りに行き、売上金在中の風呂敷包を

落す、金、届けてありたり、交番にて、高

崎署在勤の佐藤部長に「短歌」 大沢政

司

夕③年頭の感(1) 南小路薫 (〜1月19日(2))

夕③歌舞伎劇の本質論(1) 吉井忠男

〜1月19日(2)まで確認

夕③義人茂左衛門を繞る 上毛奥利根の史跡

巡礼(1) 綿貫六助 (〜1月26日(3))

夕③便り「詩」 石山己之吉

夕③妻を失ふ 大槻三好

夕③秋の句会 長谷川止風庵にて「俳句」

雪、七種 止風、路石、紫草、刀水／寒

行、凧 紫草、止風、刀水、鶏助、路石

夕③いなめ会「俳句」 仲春、赤陽子、歌男、

桜舟、吐秋、木人、雨亭

13日(月)

朝③大つぴらに開く産児制限講演 来る十九

日前橋と伊勢崎で 民衆党聯合会主催

14日(火)

夕③お馬の玩具 馬の名産地から見た土俗精

神の現はれ 干支に因み馬の玩具につい

て 中野鉄太郎(談)

夕③正月の夜の林檎「俳句」 中塚一碧楼

夕③今後の婦人は強き意志が必要 美人の娘

を持つ母親の責任は大 鳩山春子(談)

15日(水)

夕②キネマと教育に除かれぬ悩み 映画の選

択に一步を進める 醇厚会真剣な試み

夕③都会と農村の正月を統一せよ 生活改善

同盟会常務理事 土肥脩策(談)

夕③絵画彫刻に現はされた馬(1) 表現法に見

る東西の共通性 (〜1月16日(2))

夕③実生活に編物をお勧めしたい理由 東京

家庭生活改善会技芸部長 樋口歌代子

(談)

16日(木)

夕③現時の世相と国民生活の改善(1) 棚橋源

太郎(談) (〜1月18日(2))

夕③婦人は余りに余暇が無き過ぎる 婦人の

向上は斯くして望まれる 大妻コタカ

(談)

夕③春寒き島にて「俳句」 荻原井泉水

17日(金)

夕②気を吐く両氏は上毛展でのお馴染 白日

会洋画展に入選した若い岩崎堀口の両氏

夕③望み多き昭和五年の新春 婦人の立場を

自覚して共に本分を果しませう 文相夫

人 田中佳満子(談)

夕③公娼、私娼は中性に変質する 婦女の中性

変質は重大なる社会問題 富士川游

(談)

夕③新年のうた「短歌」 柳原燐子

夕③春初囀鳥「画」 平福百穂

18日(土)

朝②愈々文部省が日本思想文献刊行 学生の

思想対策として

夕①小林丑三郎氏十六日午後十一時死去

夕③干支に因んで 浄瑠璃に現れた駒曳銭の

話 近松の傾城反魂香 伝説中の狩野元信

(1) (〜1月21日(2))

夕③ゆびたりな「俳句」 河東碧梧桐

夕③主婦の采配一つで夜を楽しい夕に 家庭

生活の和菜はすべて麗しくす 柳葉きよ

子(談)

19日(日)

夕③新年曙色「短歌」 太田水穂

夕③冬二題「短歌」 若山喜志子

夕③生品の森(1) 松美佐雄 (〜1月26日(2))

21日(火)

夕②村の目覚めを語る主婦連中の智識欲聴

講者の七割は女 吉井農事講習の特殊の

現象

夕③本能的習慣性の衝動が即ち盜癖 恐怖観

念の起らぬ前に盜癖を防げ 保美駒蔵

(談)

夕③ 反逆心の形成時代 恐るべき現代の諸相

青年誘導の責を想ふ 赤神良澄(談)

22日(水)

夕③ 偉大な精神の力 人間向上の源泉、平素鍛

錬の必要 青柳栄司(談)

23日(木)

夕③ 接客観賞の爲めの庭園は家族本位に子

供の遊べない様な庭園は無きに若かず

塚本ハママ子(談)

夕③ 子供の教育はなるべく叱らぬやうに高

野薫(談)

夕④ 怪奇探偵小説 呪曲「小説」(1) 高橋掬

太郎 (〜7月11日(金))

24日(金)

夕③ 教育の目的と社会教育の実際 形式的で

は実際教育の自由を失ひ意義も生命ない

東京市社会教育課長 池園哲太郎(談)

夕③ 礼儀と作法 目上目下時と場所に於ける

言葉の遣ひ方 女子学習院 村田志賀子

(談)

夕③ 時代に順応した生活様式を創造せよ 日

本女子大学教授 東佐与子(談)

25日(土)

夕③ 子女を教育する標準の根本観念 今後の

教育問題は民族的に解決せよ 三輪田元

道(談)

夕③ 子供の性質により採るべき教育手段 両

親は子供の性質を理解せよ 少年審判官

前田偉男(談)

夕③ 馬になつた人間の話「童話」(1) 東京日

本お伽学校長 樋口紅陽 (〜1月30日(4))

26日(日)

朝④ 学生の選挙運動嚴重に取締る 学生とし

ての自分を超えざる事を要する

夕③ 新らしき詩集新らしき人 小野忠孝

夕③ 詩集「黄蜂」礼讚 岡部宇一郎

夕③ 露店商人「詩」 島野一衛

夕③ 口はばつたこと「歌謡」 松田牧之助

夕③ 田園風景 独居久しき山小屋を下る「短

歌」 中曾根白史

夕③ 月「詩」 多駄羅十吉

夕③ 奥毛野「短歌」 青山丈夫

夕③ 大槻氏の御令聞へ捧げる「詩」 清水信、

永瀬英一、上田正路、山田栄司

27日(月)

朝③ 地方婦人に呼び掛る 岸边氏 前橋婦人会

で来月十五日 婦人問題の講演開催

28日(火)

朝④ 実話レビュー 銀座行進曲「小説」(1)

泰賢助 (〜3月1日(28))

夕② 朗らかな若人の心に就職難の暗い影 就

職が出来るのは卒業生の約半数 一万余

は高等遊民の洪水

夕③ 主婦は趣味と共に科学知識を養へ 婦人

雑誌に凝らず 科学研究書を読め 柳葉清

子(談)

夕③ 幼児感覚は恐しい結果になる 襲来を

防ぐ手段、罹つた時の手当 三枝敏(談)

29日(水)

夕③ 我等のあこがるる常世の浄楽 高く深く

久しきは宗教養にこそ 高島米峰(談)

夕③ 国歌は何を表すものでせう 何れの国歌

を歌ふ場合も厳正の姿勢

夕③ 海辺巖「書」 松村琴荘

夕③ 武助馬「落語」(1) 三遊亭円生(演)

(〜1月31日(3))

30日(木)

夕① 歌会始めの御儀いと厳かに行せらる 神

苑の梅花も綻び初めたけふ 両陛下鳳凰

の間へ出御

夕② 引込み勝の女へ海外思想を普及 松平海

外協会理事を招いて 前橋婦人会が講演

夕③ 宇宙の秩序は先づ科学の結果にある 宗

教と科学との融合に就いて 姉崎正治

(談)

夕③ 武井武雄氏の日本郷土玩具一巻を 柳芳

太郎

31日(金)

夕③ 婦人の厄年は思春期と更生期 十五歳、四

十六歳を中心とする生理衛生 富士川游

(談)

夕③ 無気力な地方のインテリゲンチヤ 九州

旅行での感 秋田雨雀(談)

昭和5年(1930) 2月

1日(土)

朝④ 俗悪低級な流行歌の撲滅策 学校唱歌の

振興に依りジャズ気分排除

- 夕③不徹底な緊縮政策は不可意味なき緊縮
は反つて国勢を削ぐ 塩田清一(談)
- 夕③体質環境に依り酒は百薬の長然し遺伝
の素質ある者や血圧の高い人は禁物 篠
田義一(談)
- 2日(日)
- 夕③あらくさの「短歌」[書] 大沢雅休
- 夕③正月の歌「短歌」 藤岡林城
- 夕③上毛詩界の収穫 黄蜂及び風塵の故郷
清水房之丞
- 夕③豚「詩」 田島嘉之
- 夕③私の舞踊 山田五郎
- 夕③おきみさん 大沢真佐子
- 夕③大槻松枝遺稿「短歌」 大槻松枝
- 夕③新美術劇場の仕事 藤島鶴三郎
- 夕③海辺巖「書」 小俣方向斎
- 夕③石路支社歌会「記事」 芳水/「短歌」
吉岡芳水、宇佐美白峰、佐藤光葉、清水
芳泉、大塚太一
- 4日(火)
- 朝③高松宮殿下御結婚式 佳き日けふ、早春の
気澄む大内山の聖地 賢所大前に巖かに
御挙行
- 朝③総選挙に直面して婦人諸君に呼び掛ける
岸辺福雄氏 十五日前橋婦人会の講演会
- 夕③名譽地位にも勝る健康の宝 試験シーズ
ンに特に学生に注意
- 夕③社会は憂ふ青年と酒害 華やかな酒場は
青年の墓場なり 守屋東(談)
- 5日(水)
- 夕③誤られたる栄養の觀念 栄養分は無条件
に万能ではない 栄養研究所長 佐伯炬
(談)
- 夕③名映画礼讃「キング、オブ、キングス」
武者小路実篤
- 夕③光明を奪はれた盲人に理解あれ 盲児を
持てる父兄の方々に(1) 群馬県立盲啞学
校 片岡正一(談) (2月11日(5))
- 夕③権田栗毛「童話」(1) 堀越順平
(2月11日(5))
- 6日(木)
- 夕②我国の美術には欠陥が少くない 美学研
究に留学中の井上房一郎氏帰つて語る
- 夕③総選挙に当り国民の自覚を促す 政治家
の墮落は国民の無自覚より 三輪田元道
(談)
- 7日(金)
- 夕③受験前に最も必要な脳の衛生 受験者は
勿論保護者も充分に注意を要す 斉藤玉
男(談)
- 夕③春先のお化粧 メイ牛山(談)
- 8日(土)
- 夕③服装は時代に従ひ改善創造せよ 単に在
来の踏襲のみでは意義をなさない 土肥
脩策(談)
- 9日(日)
- 夕②警戒の目が光る映画の新傾向 大衆に受
けると見込んで階級的映画の続出
- 夕③静物「画」 石丸夏子
- 夕③冬日「短歌」 須藤泰一郎
- 夕③新舞踊についての一考察 山田五郎
- 夕③花街「詩」 多駄羅十吉
- 夕③万葉集伊香保の歌考(1) 大沢雅休
(3月2日(2))
- 夕③百姓と音楽 野の詩人ミストラール 原
沢柳志
- 夕③なぎなたの踊り 山田五郎氏近影「写真」
- 夕③冬日章、無抄「詩」 栗原道子
- 夕③野良の味「民謡」 小野吉郎
- 11日(火)
- 夕③最も恐る可き物質万能主義 人間として
物質以上尊ぶ可きものがある 川合貞一
(談)
- 夕③雛人形の先祖 天児のお話 之で呪ひが今
も諸国で行はれる
- 13日(木)
- 朝③聴け！女性の叫び 政界革新講演会 火の
ごとき叫び！講師 婦選獲得総務理事
久布白落実、会務理事 市川房枝、中央委
員 河崎夏子「告知」
- 朝③女流闘士を迎へて政界革新の叫び 十六
日前橋市臨江閣別館で上毛新聞社主催の
下に開く
- 夕③買収を根絶せねば選挙革正は困難 選挙
民の自覚が大切 迷はず惑はされず厳正
に 明治大学教授 池岡直孝(談)
- 夕③四月入学の愛児に下手な暗誦教育は百害

あつても一利ありませぬ 学齡児童のお家庭へ

14日(金)

朝③開期いよ／＼近づく 政界革新の講演会
後有志婦人と懇談会 本県婦人参政史の序曲

夕③年と共に愈々難治 社会の癌、就職難一年のうちに卒業生は倍加して今はその半分が遊民に

夕③菜壇漫語(1) 音波亭浮沈(〜2月23日(8))

夕③梅ならぬ里 梅ならぬ風もなく 一重にて

色も正しや花の兄 子供読物、早春、梅とその句(「俳句」大江丸、成美、梅仙、

乙磨、涼山、牛伴、標林、楓晚、貞因、

蓼太)

夕③竜神の情け「童話」(1) 堀越順平

(〜2月18日(4))

15日(土)

朝③総選挙に直面して 政界革新の叫び 婦選

同盟の幹部諸姉出演 愈よ明十六日臨江

閣で開く

朝③政界革新講演に高崎婦人共鳴 愛国主婦

会幹部来聴

夕③食糧問題も緩和する主婦の食品合理化

国内で出来る食糧は全国民を養ふて余る

東京女子大学教授 井上季子(談)

夕③白孔雀 九条武子夫人をしのびて「詩」

吉井勇

夕③作り出される菓子一年に五億円 キヤラ

メル衰へて今はチヨコレート全盛時代

16日(日)

朝③上毛婦人に呼掛ける 政界廓清の叫び 婦選獲得同盟の三女史を迎へてけふ臨江閣の大講演会

朝④官立校入学に思想傾向を重視す 注目すべき文部省の方針

夕③時代の変遷により制度と生活様式 我が

国の家族制度も新しい生活様式へ 東京帝国大学教授 綿貫哲雄(談)

夕③萩の句会 鶏助庵にて「俳句」 寒 葉

月、路石、止風、鶏助／余寒、里風、山

夫、路石／若草、鶏助、山夫、里風、止

風、紫草、路石、葉月／紀元節、路石、

紫草、鶏助

夕③妊娠時の栄養 母体と胎児の関係 セムシ

や骨軟化症は母親の栄養不良から 藤巻

良知(談)

17日(月)

朝②紅唇に盛る熱火の弁 政界廓清を説く 婦

選獲得同盟の三女史に聴衆二千、全く魅

了せらる。きのふ本社主催政界革新講演

会盛況

朝②都会の婦人より地方婦人の一致団結に頼

る所の多い婦選の獲得 講演会に来橋し

た市川房枝女史談

18日(火)

夕②本社主催政界革新講演 三女史の講演内

容大要(1)「正直な人」を先づ第一の条

件に 婦選同盟中央委員 藤田タキ／情実を排して国民の為に働く人 河崎なつ子

子

夕③雛祭は女兒の家庭娯楽日にせよ 大人の

嗜好より子供本位に 棚橋源太郎(談)

夕③お雛段に飾る親王様の位置 正しいお雛

段の飾り方

夕③どこの国の人がどんな原因で死ぬでせう

チプスで死ぬのは日本が一番

(〜2月19日(2))

夕③不景気挽回と国家禁酒政策 無産階級の

立場から 現時日本の好資料(1) 英蔵相

フライリツプ・スノーデン(談)

19日(水)

夕②本社主催政界革新講演 三女史の講演内

容大要(2) 本場に国を思ひ国の為働く人

婦選獲得同盟理事 市川房枝

夕③可憐な群より 聾啞児童を持てる父兄へ

(1) 群馬県立盲啞学校聾啞部 小島鶴三

郎(談) (〜2月22日(4))

夕③兵隊ごっこ「童話」(1) 伊藤義一

(〜2月22日(4))

20日(木)

夕③婦人の自覚で政治を明るく 選挙に当つ

て婦人の自覚と応援を俟つ 吉岡弥生

(談)

21日(金)

夕③子供の就職を焦り一生を誤まらすな子

供にも悲しき生活難時代 目前の小利を
追へば将来は失業 黒田治市郎(談)

22日(土)

朝④頻発する植民地の思想悪化対策 近く拓
務、内務当局が根本対策を協議する

夕③いよゝゝ入学試験 大胆にまた細心にそ
の日の心得十ヶ条

夕③意地わるの子 けちんぼうの子供 大切な
そのしつけかた 日出野百合

23日(日)

夕③訪づれる春をよそに試験準備の児童達ち
禁制を冒して先生も懸命 痛ましいこの
ごろの準備教育

夕③裸体芸術の誤れる観察(1) 朝倉文夫
(談) (〜2月25日(2))

25日(火)

朝③前橋婦人会で舞踊と音楽の夕べ 三月二
日夜柳座に開く

夕③人は養生次第で優に百歳迄は生きる 衆
隠居では到底長命出来ない 浅田一
(談)

夕③日光から動力を得て、いろいろの仕事
する こんど八博士の発明

〈子供の科学ニュース〉

26日(水)

夕③余りにも無駄の多い今日の農村生活 農
村自ら救はれるため生活の合理化を図れ

夕③栄養、栄養として噛むことが必要 粥を食す
る位なら粥になる迄噛め 岡田満(談)

夕③学用品の購入や学前のしつけ 高島円子

27日(木)

朝③前橋大火の後報 判明した全焼家屋は大
部分が料理店の大建物 横山町二十戸、榎
町四十六戸、立川町四戸 合せて七十戸七
十九棟

夕②折柄の烈風中に発火 目貫七十余戸を焼
く 必死の消防も水利の便悪しく 今晩前
橋市の大火

夕③国産品と舶来品にこの大きな値開き 安
い国産品と馬鹿高い舶来品 国産品を愛
用致しませう

夕③巴里の頃の山田五郎氏 二日前橋で公演
「写真」

夕③国産品を愛用せよと、英国でも政府が大
宣伝中 (〜3月9日(2))

夕③現実を離れて真実の世界はない 富士川
游(談)

28日(金)

朝③新舞踊の山田氏を中心に楽壇の新人たち
を迎へて 三月二日柳座で昼夜二回開催
写真石丸悟平氏愛嬢平山陽子さん
「告知」

夕③生活難を感じる国民に発展なし 人口問
題解決に優生運動を叫ぶ 三輪田元道
(談)

夕③国産品使用から生活安定へ 更に経済国
難防止上英独に学ぶべきこと

昭和5年(1930)3月

1日(土)

夕②子育ての吞龍に因んで小供の大博覧会来
る 四月から大光院の境内で 太田商工会
の計画進行中

夕③行詰りを生じた東京の産児制限案 市社
会局遂に匙を投ぐ

夕③山田五郎氏の舞踊を見る 石丸喜世子
夕③神さまと小鳥「童話」(1) 堀越順平
(〜3月8日(5))

2日(日)

朝③県下諸流華道大会「告知」

朝④実話レビュー 相馬事件「小説」(1) 泰
賢助 (〜4月16日(38))

朝④全国的となつた農民美術 長野岐阜が最
も盛ん 趣味と実益との副業

朝④国民健康保全と体育運動振興 学生思想
の善導に有効

夕③霜夜「短歌」 浦上山夫

夕③節分日記(1) 綿貫六助 (〜3月9日(2))

夕③夢でない夢(便りにかへて) (1) 温井東
衛 (〜3月9日(2))

夕③いなめ会「俳句」 鳴月、一枝、吐秋、
仲春、小花

夕③抛物線(学校詩集に就いて) 篠原吾郎

夕③生活余情「短歌」 木村亀道

夕③春雑詠「短歌」 角田節子

夕③雑詠「短歌」 清水芳泉

夕③とある心「短歌」 岸とらを

4日(火)

夕②珍しい人気を呼んで副業展の蓋あく全
県下から出品一万数千点

夕②春の宵、華かに舞踊と音楽の夕べ 前橋婦
人会主催 本社後援 頗る盛況裡に終る

夕③物品の経済から時間の経済へ 大妻コタ
カ(談)

夕③楽園の妖魔 小児肺炎の注意 中島了介
(談)

5日(水)
夕③母には愛の力と教育的技術が必要 棄ら
れて生えた堤上の花は小さい 東洋大学

教授 関寛之(談)

夕③近づく学年末 大切な家庭教育 黒田治
市郎(談)

夕③裸体の讚美 日光浴と入浴

夕③復活されたふりく、競技奨励 東京市の
復興祭に行ふ 有坂与太郎(談)

6日(木)
夕②賑々しい盛況の裡に副業展けふ終る

夕②郷土色彩が濃い美術品の創作 前橋に組
織せられた郷土芸術研究会の第一声

夕③病氣に対する知識は必要だが素人治療は
最も危険 長町穆(談)

夕③良く産み良く育てよ 三ツ子の習慣百ま
で(1) 田中芳子(談) (3月8日(2))

夕③眼「詩」 小野忠孝

7日(金)
夕③労働能率増進には禁酒が最も必要 飲酒
は人為的経済の進歩を拒む 小塩完次

(談)
夕③写意と写生 芭蕉、蕪村、子規、乙字 帝
大講師 志田素琴(談)

8日(土)
朝②中等学校生徒の思想善導問題 特に体育
の方面からスポーツ精神の高調努力

朝④学校教育にも映画を利用 社会教育のみ
ならず積極的に学校教育へ

夕③栄養品の撰択が家庭経済の基 安価で栄
養豊富の物を用ふること

夕③壁画を研究せよ 建築との調和から 神
田古畔(談)

9日(日)
夕②想起す、日露の役廿五週年 日露開戦秘史
(1) 陸軍大将 福田雅太郎(談)

夕③前橋大火「短歌」 須藤泰一郎
(3月10日(2))

夕③県下の童謡詩人に檄す 青柳花明
夕③お手々握ろよ 県下童謡詩人に寄す、ねこ
楊、春風の指、屋根ふき「童謡」 青柳花
明

夕③ひばりははやおき「童謡」 川辺潤三郎
夕③夢の猿さん「童謡」 柳芳太郎

夕③抛物線に対立する 篠原吾郎氏へ 長部
慶一郎

11日(火)
朝②群馬共産党事件きのふ判決言渡さる 巨
魁の朝倉は懲役六年

朝③華道大会出品者展望(1) 華道に精進し社

会的に働きたい念願 松玉斎 永井理鷹女
史

夕③学業を卒えた青少年の職業指導 個性及
び性能に基いた科学的職業指導が第一
東京社会局 浜井浜太郎

夕③お月さん「童謡」 篠原雅子
夕③時代の推移に伴ふ住宅改善の目標 衛生、
能率総てから椅子式が時代的だ 土肥脩
策(談)

夕③雀の生活「童話」(1) 伊能義一
(3月15日(5))

12日(水)
朝③華道大会出品者展望(2) 風流三昧の生活
五十余年に及ぶ 貞椿斎 増田一映

夕③時勢は移り実業教育時代 徒らに高遠の
理想のみでは現実には違反する 文部省実
業学務局長 木村正義(談)

夕③春の畑遊び 面白いからせひくやつて
ごらんさい 茂木重許氏のお話
へこどものページ

13日(木)
朝③華道大会出品者展望(3) 古雅と気品を備
へる池ノ坊の草分け 秀香軒 古平瑞雪

朝④ベルリンのカフェーとキノ(1)
(3月15日(3))

夕③先づ合理的に体質の改善を計れ 子孫の
体質改善にも留意すべし 浅田一(談)

夕③幼児の雇り易いせむしは文明病 都市児
童に多い予防の心得

夕③労働能率増進には禁酒が最も必要 飲酒
は人為的経済の進歩を拒む 小塩完次

夕③眼「詩」 小野忠孝

夕③労働能率増進には禁酒が最も必要 飲酒
は人為的経済の進歩を拒む 小塩完次

14日(金)

朝③華道大会出品者展望(4) 古流系統の宏道

流で鳴らす 峨雲斎 北川楓奇女史

朝④農村疲弊の原因と離村の防止策 婦女子

を農村に止まらしむる事が第一

夕③学校出身の就職率は僅に三十パーセント

知識階級の失業者十五万を通して見る

不況の深刻化 東京府職業紹介所長 豊

原又男(談)

夕③極めて微妙な婦人の舌 妊娠不妊娠も舌

の表徴で判明する 今井俊一(談)

15日(土)

朝③華道大会出品者展望(5) 華道に励んで娘

たちの心身陶冶 松濤斎 永長理繁

夕③栄養と運動が肉体美の要諦 便秘は美に

大禁物です 藤巻良知(談)

夕③華道家の使命は生花の芸術化 足利時代

の奥床しさを偲びて 長井一枝(談)

16日(日)

朝③華道大会出品者展望(6) 自然の妙諦を語

る 梅窓庵 高山一山老、細川流益景は世

知辛い当今に適合 操琴苑 田中活水

朝④復興帝都の新景(1) (3月21日(6))

夕③現日本人に必要な虚栄病の全治 習慣の

情性、時勢に無自覚から起る病 棚橋源

太郎(談)

17日(月)

朝③華道大会出品者展望(7) 華道の趣味は単

なる娘芸でない 松影斎 大島理勝

朝③古雅と画趣の殿堂 本社の華道大会 精を

蒐め粹を抜くべく出品諸家の素晴らしい

意気込み

18日(火)

朝③華道大会出品者展望(8) 現代生活様式が

盛花を要求するやうに茶道も又新味を以

て進みたい 釋松軒 小屋一掘

夕③歴史的に見た栄養問題に就て 佐伯矩

(談)

19日(水)

朝②書物を通じて得た日本の印象を自分自身

の体験に依つて深めんとする期待に心躍

る デンマーク皇太子殿下メッセージ

朝③華道大会出品者展望(9) カード階級の味

方で華道にも親しむ 貞藍斎 青木一定

夕③卒業の喜びは直ちに就職難の苦 卒業証

書は就職の約束手形ではない 東京市社

会局長 安井誠一郎(談)

夕③類句論序説 伊藤月草(談)

夕③草萌え時の今が性病の怖い時 一年中で

一番権り易い

20日(木)

朝③華道大会出品者展望(10) 華を通して娘さ

んと和む喜び 松濤斎 能条理真

朝③陽春の前橋を彩る本社の華道大会 会場

の準備も全く成つて愈よ今日、活け込み

飾り付け

夕③人為淘汰なき民族は衰亡す 自然淘汰の

力は最早薄弱である 池田林儀(談)

夕③大学崇拜の迷夢を避けたい 小学校と個

性調査について 高野薫(談)

夕③婦人の職業的進出 職業を望む婦人の

方々へ 東京府職業紹介所長 豊原又男

(談)

21日(金)

朝③睦み合ふ華道家 五百余名を網羅してい

よく今二十一日から蓋を開ける 本社

主催の県下華道大会

夕②封建の因襲も久しい歌舞伎王国にも維新

到来! 新派、旧劇、映画の各方面に亘り

大規模な学校が出来る

夕③墮落する婦人の罪の半は家庭にある 東

京浅草寺婦人会館 生田八栗(談)

夕③小学児童に宿題が多過ぎる 田辺協一

(談)

夕③思春期にある子女を持つお母様方へ性

教育は其根本から疑惑を抱かせるな 性

教育研究会主事 瀬下十兵(談)

23日(日)

朝③明治十八年六月の本県蔵書目録 得難い

珍籍の名もある

朝③雲嶺と海雲(1) 東山々人(東京高師授

中嶋信虎) (4月3日(12))

朝③花に魁ける花の集い 華道大会の盛況 総

裁堀田知事も臨席して会場大広間で感謝

状授与

夕②繰り抜られた美しい華の絵巻 本県

華道史の第一頁を飾る 本社主催の第一

回華道大会の盛観

夕③生徒や父兄達も学校の選定を誤るな入学落伍者の辿り行く途 不良私立学校からくり

夕③期節と犯罪 世相と精神病 経済的圧迫から性的昂進に基く犯罪

25日(火)

夕①けふ、恵まれたる復興日和 天皇陛下親しく御巡幸 帝都の市民が努力のあとをみ

そなはず 街々に溢るゝ感激の渦巻

夕③美しい感激は魂を浄化する 如何なる無頼漢でも感激で生れ変り得る 朝日融溪

(談)

夕③子供のしつけ方 子供は双葉のうちこそ正しく育てられる

26日(水)

夕③神経衰弱者が診察を受ける態度 医者信じて病気を忘れよ 森田正馬(談)

夕③婦人の職業問題と女性の天職 良妻賢母主義と現実とは果して一致するか 東京

市女子職業紹介所 小野繁彦(談)

27日(木)

夕③農村の振興は農村生活の改善から農村離脱の真因は何か 沢村真(談)

夕③就学児童を持つ家庭への希望 我子を買ひかぶるな 他の子と比較するな 東京

市社会局長 藤井利誉(談)

夕③華道大会を顧みて(1) 男まさりの気性を花に見せる 松東斎 国峰理益女史

28日(金)

夕③成年期でも禁欲は害でない 世間に往々誤つた言を為す者がある 浅田一(談)

夕③華道大会を顧みて(2) 高尚優雅な盛物に清新さ漲る 太田巖甫氏の一室

夕③子供の強敵 流行性感冒に就いて(1) 中島了介(談) (3月29日(2))

29日(土)

朝④農村婦人の生産的自覚統合 積極的に副業生産に努力せんとする傾向

夕③帝都復興と共に共栄共存の実を凶れ地方都市の人口と同じ失業者群

30日(日)

夕③茂左衛門地蔵尊春季祭典所見(1) 綿貫六助 (4月1日(2))

夕③前衛映画の印象 省次郎

夕③夜(童謡)「童謡」青柳花明

夕③メモの一節(1) 木名瀬虎雄 (4月6日(2))

夕③春宵集「短歌」競馬 松浪幸三郎/春雑詠 瀬戸弘道/五首 青山丈夫

夕③キリスト。マルクス日蓮の対話(1) 母子教会 藤田悟 (4月13日(3))

31日(月)

朝②婦人参政権 實際上時期尚早 比例代表に賛否半す 選挙革新と与党側の意見

朝③農村疲弊の救済に農政研究会を組織して 基本的に研究 県農会を主体に官民合同の団体に